Panasonic

取扱説明書

ワイヤレスマイクロホン

品番 WX-DT135

RAMSA

技術基準適合証明品

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」（6〜7ページ）を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

はじめに

商品概要

WX-DT135（以下、本機）は、ワイヤレス受信機 WX-DR131（別売品、以下受信機）、電池ホルダー WX-BH104（別売品）などと組み合わせて使用する800 MHz帯ワイヤレスマイクロホンです。

- 小型・軽量化により、屋外における映画、ドラマのロケ取材や緊急報道などの制作現場における音声の収音に適した2ピース仕込み型ワイヤレスマイクです。
- 音声の伝送遅延時間は、遅延ショートモードでは約1.3 msec、遅延ロングモードでは約2.9 msecを実現し、現場の要求に応える低遅延設計です。
- 遅延ショートモード、遅延ロングモードともに、10チャンネルの同時運用が可能です。
- 遅延ロングモードでは、瞬間的なパルス性の妨害波が受信周波数帯に飛び込んだ場合の混信によるノイズや音切れを防止する性能を強化しています。
  ※本機能については、上記妨害波による不具合防止を保証するものではありません。
- ライン入力（基準入力レベル+4 dBu、ヘッドルーム20 dB）、マイク入力（基準入力レベル-66 dBV～-16 dBV、可変幅50 dB、1 dBステップ、ヘッドルーム36 dB）の幅広い音声入力レベルに対応しており、さまざまな機器からの音声入力ができます。
- 電池残量の目安を電源ランプの3段階表示（緑／橙／赤）、および液晶の5段階表示によって確認することができます。
  また、WX-DR131をご使用いただくことで、受信機で本機の電池電圧や電池残量を確認することができます。
- 送信出力は、10 mWまたは2 mWに切り替えることができます。2 mW設定は、複数のワイヤレスマイクを運用しているときにお互いの干渉を軽減できるため、多チャンネル運用で効果を発揮します。
- キーコードとプライベート通信を設定しておくことで、本機と同じキーコードを設定した受信機のみで受信できるようになります。
- テスト音声信号を内蔵しており、本機からテスト音声を送信して受信機との接続を確認することができます。
- 本機の設定を保存するメモリーを3つ有しており、設定を読み出して設定を切り換えることができます。
- 本機とBluetoothで接続した受信機WX-DR131から、本機の各種設定や電源の入／切などを制御することができます。
- 電池ホルダーWX-BH104（単3電池4本用、別売品）をご使用いただくことで、付属の電池ホルダー（単3電池2本用）と比較して、約2倍の時間（約14時間※単3形アルカリ乾電池使用時）連続動作させることができます。

注：本書に掲載している別売品の品番は、2016年7月現在のものです。

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
②お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損などの不便・損害・被害
③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず発生した一切の故障または不具合
④本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、運用ができないことで被る不便・損害・被害
⑤第三者の機器等と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
⑥第三者の機器から発せられる電波により、本商品が使用できないまたは使用できないことによる不便・損害・被害
⑦故意または偶然の結果、通話内容が第三者に傍受・漏えいすることによる不便・損害・被害
本商品の無線通話はデジタル方式を採用しておりますが、傍受を抑止する機能はありません。故意または偶然の結果、第三者が傍受し、通話内容を知り得ることがあります。

付属品をご確認ください

ラベリアマイクロホン.....1個
ネクタイピン型マイククリップA（横型）.....1個
ネクタイピン型マイククリップB（縦型）.....1個
ウインドスクリーン（金網）※.....1個
ウインドスクリーン（ウレタン）※.....1個
ソフトケース.....1個
ベルトケース.....1個
電池ホルダー（予備）.....1個
外部マイク用変換ケーブル
（XLR-3-11C™KMC-9BPD-4P）.....1本
取扱説明書（本書）.....1冊
周波数表.....1枚
保証書.....1式

※ ウインドスクリーン（金網、ウレタン）は、電池ホルダー（予備）の中に収納されています。

商標および登録商標について

● Bluetooth® ワードマークおよびロゴは Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、パナソニック株式会社によるこれらのマークの使用は許可を受けています。

用語・記号について

本書では、以下の用語および記号を用いて説明しています。

受信機
ワイヤレスマイクシステムにおける、電波を受信する機器の総称です。

ワイヤレスアンテナ
ワイヤレスマイクシステムにおける、電波を受信するためのアンテナの総称です。WX-DR131などのポータブルワイヤレス受信機では、本体に取り付けられているアンテナを指します。

バンド
本機で送信する電波に対して、1波あたりに占有する帯域幅のことです。

グループ
各チャンネルの送信周波数を、使用するチャンネル数に合わせてあらかじめ選択し、組み合わせたものです。使用目的や環境に合わせて選択します。

チャンネル
同一グループ内で、同時に送信可能な周波数に番号をつけたものです。1チャンネルに1周波数が割り当てられます。単に周波数を数えるときは、1波、2波･･･と数えます。

チャンネル呼称（呼称番号）
各周波数に付けられた番号です。一般社団法人電波産業会で規定された番号のため、他のメーカーでも番号に対応する周波数は同じです。

入力感度
音声入力コネクターから入力される音声信号のレベルは、接続されるマイクの種類によって異なります。このため、適度な入力レベルになるように入力感度を調節します。

重要 ： 該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。

memo ： 使用上のヒントが書かれています。

もくじ

はじめに

はじめに ……2
商品概要 …… 2
免責について …… 2
付属品をご確認ください …… 3
商標および登録商標について …… 3
用語・記号について …… 3
もくじ ……4
安全上のご注意 ……6
使用上のお願い ……8
Bluetooth をお使いになる場合のお願い …… 8
取り扱い上のお願い …… 8
上手な使いかた …… 9
お手入れについて …… 9
周波数表の見かた …… 10
B 型デジタルワイヤレスマイクのみを使用する場合 ……10
B 型アナログワイヤレスマイクと B 型デジタルワイヤレス マイクを
同時に使用する場合 ……11
各部の名前とはたらき …… 12
液晶表示について …… 13
電源ランプ表示について …… 14
ピーク表示ランプの表示について …… 14

基本操作

音声入力コネクターの接続 …… 15
電池を入れる／電池を取り出す …… 16
電源を ON にする／電源を OFF にする …… 18
本機をベルトに装着する …… 19
マイククリップを取り付ける …… 20
ウインドスクリーンを取り付ける …… 20
はじめて使用するとき …… 21

必要なとき

本機の各モード …… 24
各モードへの遷移方法 …… 25
運用モード …… 26
運用モードの画面切り換え …… 26
運用モード「運用表示」の液晶表示 …… 27
運用モード「設定確認」の液晶表示 …… 28
簡易設定モード …… 30
設定モード …… 31
クイック設定モード …… 41
スタンバイモード …… 42
キャリア OFF 設定モード …… 42
メモリーモード …… 43
メニューモード …… 49

その他

故障かな !? …… 50
仕様 …… 53
お買い上げ時の設定 …… 54
保証とアフターサービス …… 55

安全上のご注意 必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して説明しています。

⚠ 警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
⚠ 注意	「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。（次は図記号の例です）

⃠	してはいけない内容です。
❗	実行しなければならない内容です。

⚠ 警告

屋外で使用のとき雷が鳴り出したら、体から離す

❗ 落雷の原因となります。

- ただちに使用をやめ、体から本機を遠ざけてください。

分解しない、改造しない

分解禁止

火災や感電の原因となります。

- 修理や点検は、販売店にご依頼ください。

乾電池は充電・分解・ショートしない

禁止

電池の破裂や液もれにより火災、けが、やけどの原因となります。

充電池は分解・ショートしない

禁止

電池の破裂や液もれにより火災、けが、やけどの原因となります。

心臓ペースメーカー装着者は使用しない

禁止

本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

心臓ペースメーカー装着者に配慮して、満員電車などの人混みでは電源を切る

❗ 本機からの電波がペースメーカーに影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

航空機内では電源を切る

❗ 運行の安全に支障をきたす恐れがあります。

医用電気機器に近づけない（手術室、集中治療室、CCU※などには持ち込まない）

禁止

本機からの電波が医用電気機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

※CCUとは、冠状動脈疾患監視病室の略称です。

⚠ 警告

自動ドア、火災報知器などの自動制御機器の近くで使用しない

禁止

本機からの電波が自動制御機器に影響を及ぼすことがあり、誤動作による事故の原因となります。

異常があるときは、すぐ使用をやめる

煙が出る、臭いがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。

- ただちに、販売店にご連絡ください。

⚠ 注意

電池は極性（プラス＋とマイナスー）を正しく入れる

間違えると、電池の破裂や液もれにより火災、けがや周囲を汚損する原因となります。

ニッカド電池は使わない

禁止

万一、内部が破損していた場合、発火の原因となります。

ぬれた手で使用しない

ぬれ手禁止

感電や故障の原因となります。

違う種類の電池や、新旧の電池は混ぜて使わない

禁止

電池の破裂や液もれにより火災、けが、やけどの原因となります。

使用上のお願い

⚠警告、⚠注意に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

海外でのご使用
海外で使用しますと各国の法律に違反する場合があります。

技術基準適合証明表示について
本機は、電波法で規定される技術基準適合証明品です。機器一台一台にその証明番号（証明表示：下図）が表示されています。みだりに剥がしたり、損傷しないでください。**証明表示が剥がれた状態で使用することは法律で禁じられています。**

違法改造しないでください
本機を分解したり、内部の部品にさわったりしないでください。**改造することは法律で禁じられています。**

Bluetoothをお使いになる場合のお願い

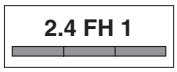
この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）、ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

①この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。

②万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止したうえ、ご相談窓口にご連絡いただき、混信回避のための処置等（例えばパーティションの設置など）についてご相談ください。

③その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときには、パナソニック　システムお客様ご相談センターにお問い合わせください。

本機のBluetooth機能が使用する周波数帯



この機器が、2.4 GHz周波数帯（2400から2483.5 MHz）を使用する周波数ホッピング（FH）方式の無線装置で、与干渉距離が約10 mであることを意味します。

取り扱い上のお願い

- 受信機はデジタル対応の受信機WX-DR131を使用してください。
- パワーアンプ、ビデオモニター、測定器などの発熱の多い機器の上や、夏の閉め切った車の中に放置しないでください。保存はなるべく乾燥したところで行ってください。
- 高精度の調整がしてありますので、強い衝撃を受けたり、床などに落しますと特性が変化することがあります。取り扱いには十分ご注意ください。本機に衝撃などが加わると受信機より衝撃音が発生しますので、衝撃を加えないようにしてください。
- 本機は、周囲温度0 ℃～＋40 ℃の範囲でご使用ください。10 ℃以下になりますと、使用電池の寿命は短くなりますので、動作時間などにご注意ください。
- 2週間以上使用しないときは、電池を取り出してください。
- 雨の中での使用や直接水のかかる場所では使用しないでください。
- 塩害や腐食性ガスが発生する場所で使用しないでください。
- 高所で使用する場合は、取り扱いに十分ご注意ください。
  落下すると、けがや故障の原因となります。

上手な使いかた

クリック音の防止について

電池の交換、出し入れのときは、クリック音防止のためアンプやミキサーなどのボリュームをしぼってから行ってください。

雑音のないきれいな音で聞くには

本機はワイヤレスアンテナとの距離を屋外は見通し距離約90 m、屋内は約30 mまで離してご使用になれます。雑音が多いときは、つぎの点にご注意ください。

- 雑音が入る場合は、できるだけワイヤレスアンテナに近づけてご使用ください。そのときの距離は2～10 mにしてください。なお、ワイヤレスアンテナから2 m以内に近づきますと、使用していないチャンネルへの飛び込みや混信などをおこすことがあります。

ご使用の際は

- ワイヤレスマイクどうしの距離は50 cm以上離し、ワイヤレスマイクとワイヤレスアンテナとの距離は2 m以上離してください。周波数の干渉により混信を起こすことがあります。
- 本機は、回転機、変圧器、自動車のイグニッション雑音の影響を受けにくい場所を選んで使用してください。
- 周囲に電波が反射するような構造物のないところでは、受信機のワイヤレスアンテナを高いところに設置することにより、ワイヤレスマイクからの電波を受けやすくできます。
- 電波が反射するような構造物がある場所でも受信機のワイヤレスアンテナの高さが低いと、極端に受信性能が悪化して音途切れの原因になります。安定して電波を受信するために、受信機のワイヤレスアンテナはできるだけ高い位置（1 m以上の高さ）に設置してご使用ください。受信機のアンテナの高さが1 mから10 cmに低くなると受信する電波の強さが約20 dB小さくなります。
- ワイヤレスマイクとワイヤレスアンテナのあいだに、電波を吸収するコンクリートや大勢の人が入ると、受信レベルが低下し、到達距離が短くなります。

お手入れについて

- 電源を切り乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナーなど揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- 電池の電極や電池ホルダーの端子は汚れた手で触れないでください。接触不良やノイズの原因となります。
  汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。

周波数表の見かた

本機を含めたシステムを設定する前に、付属品の周波数表をご確認いただいて、周波数プランを決めてください。

B型デジタルワイヤレスマイクのみを使用する場合

周波数表は、周波数とチャンネル呼称（CH呼称）が記載されており、グループとチャンネルが割り振られています。

例えば下図のように、806.250 MHz（チャンネル呼称:BD1）には、「32/01」と記載されていますが、これは、B（800 MHz）バンドのグループ32のチャンネル01が割り当てられていることを指しています。

周波数[MHz]	CH呼称	B（800 MHz）バンド グループ		
		31	32	33
806.125	BF1	31/01		
806.250	BD1		32/01	
806.375	BB1			33/01
806.500	BE1	31/02		
806.625	BC1		32/02	
806.750	BA1			33/02
806.875	BF2	31/03		

複数のワイヤレスマイクをご使用になる場合は、すべてのワイヤレスマイクと受信機を同じ遅延モード（遅延ショートモードまたは遅延ロングモード）、同じグループに設定し、それぞれのワイヤレスマイクを同じグループの中の違うチャンネルに設定するようにチャンネルプランを決めてください。

重要

- 本機を含めたシステムでは、ワイヤレスマイクどうしによる混信を避けるようにグループを決めており、同じグループ内で運用することで混信しにくくなります。
  違うグループで運用した場合に、必ず混信するわけではありませんが、思わぬノイズが発生することがありますので、必ず同じグループの中で運用するようにチャンネルプランを決めてください。

B型アナログワイヤレスマイクとB型デジタルワイヤレスマイクを同時に使用する場合

周波数表はB型アナログワイヤレスマイクと同一の周波数表です。
上段はB型アナログワイヤレスマイクで下段はB型デジタルワイヤレスマイクのグループ／チャンネルです。
各マイクは同一グループの異なる周波数を選択し上段または下段いずれかのグループ／チャンネルに設定してください。
B型デジタルワイヤレスマイクは、すべてのワイヤレスマイクと受信機を同じ遅延モード（遅延ショートモードまたは遅延ロングモード）に設定してください。
同一グループのグレーで示された2つの周波数は下記の組み合わせにしたがって設定してください。

- 設定可能な組み合せ
  - 2つともB型アナログワイヤレスマイクに設定する。
    （例）グループ1：（806.125 MHz）B11、（806.375 MHz）B12
  - いづれか一方をB型デジタルワイヤレスマイクに設定し、もう一方を空きチャンネルにする。
    （例）グループ1：（806.125 MHz）31/01、（806.375 MHz）空き
    （例）グループ1：（806.125 MHz）空き、（806.375 MHz）33/01
- 設定禁止の組み合せ
  - B型デジタルワイヤレスマイクとB型アナログワイヤレスマイク
  - 2つともB型デジタルワイヤレスマイク

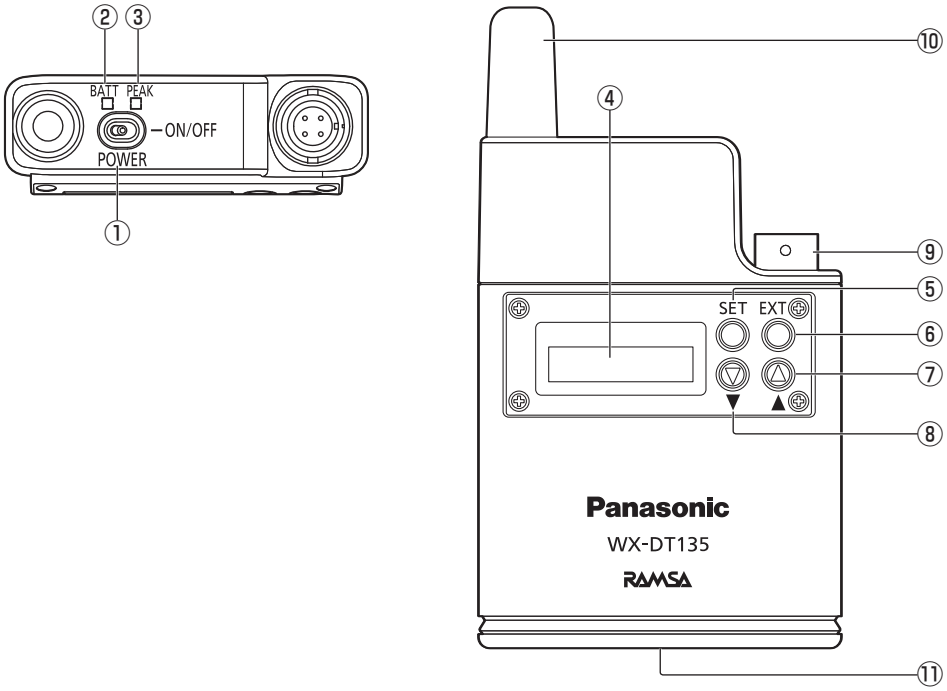
周波数[MHz]	CH呼称	グループ						
		1	2	3	4	5	6	7
806.125	BF1	B11 31/01						B71 31/01
806.250	BD1		B21 32/01					
806.375	BB1	B12 33/01						B72 33/01
806.500	BE1		B22 31/02					
806.625	BC1			B31 32/02				
806.750	BA1				B41 33/02			
806.875	BF2			B32 31/03				B73 31/03
807.000	BD2		B23 32/03					
807.125	BB2	B13 33/03						

上段：B型アナログワイヤレスマイクの「グループ／チャンネル」
下段：B型デジタルワイヤレスマイクの「グループ／チャンネル」

重要

- 本機を含めたシステムでは、ワイヤレスマイクどうしによる混信を避けるようにグループを決めており、同じグループ内で運用することで混信しにくくなります。
  違うグループで運用した場合に、必ず混信するわけではありませんが、思わぬノイズが発生することがありますので、必ず同じグループの中で運用するようにチャンネルプランを決めてください。

各部の名前とはたらき



① **電源スイッチ［POWER］**
本機の電源をON／OFFします。
右側に倒して手をはなすと元の位置に戻ります。

② **電源ランプ［BATT］**
本機の電源ON／OFF状態や、電池残量などを表示します。

③ **ピーク表示ランプ［PEAK］**
音声入力コネクターに入力された音声信号のレベルを表示します。（本機の入力感度設定が、表示に反映されます）

④ **液晶表示**
本機の状態や、操作／設定内容を表示します。

⑤ **設定ボタン［SET］**
本機を設定するときに、設定を確定するときなどに押します。

⑥ **戻るボタン［EXT］**
本機を設定するときに、設定を確定せずに元の画面に戻るときなどに押します。

⑦ **UPボタン［▲］、⑧ DOWNボタン［▼］**
本機を設定するときに、設定を選択するときなどに押します。

⑨ **音声入力コネクター**
付属品のラベリアマイクロホン、または外部マイク用変換ケーブルを接続します。

⑩ **ヘリカルアンテナ**
電波を送信します。

⑪ **電池ホルダー**
電池を収納します。

⑫ **メンテナンス用ポート**
工場でメンテナンス用に使用するポートです。何も接続しないでください。

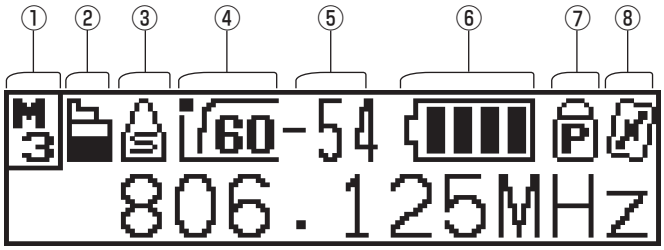
重要
- ボタンは必ず指で操作してください。先の尖ったもので操作すると、故障の原因となります。

液晶表示について

工場出荷時は、簡易画面表示（運用モードの運用表示）になっています。詳細は簡易画面表示（27ページ）をご覧ください。

■液晶表示のアイコンについて

運用モード中、本機の液晶表示の上段に下記のアイコンで、本機の状態を表示します。



① メモリー番号（44ページ）

呼び出したメモリー番号を表示します。

M1 M2 M3：呼び出したメモリー番号（呼出し後に設定変更なし）

M1 M2 M3：呼び出したメモリー番号（呼出し後に設定変更あり）

※運用モードの運用表示のとき、1つでも設定が変更されていると反転表示します。それ以外の表示では、表示されている設定が変更されていると反転表示します。

② 送信出力（33ページ）

設定した送信出力を表示します。

：2 mW　　：10 mW

③ 遅延（32ページ）

遅延（遅延ショートモード、遅延ロングモード）の設定状態を表示します。

（点灯）：ショートモード　　（点灯）：ロングモード

④ ローブースト、ローカットフィルター（34ページ）

設定したローブースト状態、ローカットフィルター状態を組み合わせで表示します。

：ローブーストなし
：ローブースト1
：ローブースト2

OFF：ローカットフィルター OFF
60：ローカットフィルター 60 Hz
80：ローカットフィルター 80 Hz
100：ローカットフィルター 100 Hz
125：ローカットフィルター 125 Hz

⑤ 入力感度（34ページ）

設定した入力感度をdB単位で表示します。

⑥ 電池残量（14ページ）

電池の残量を5段階で表示します。

⑦ プライベート通信設定（36ページ）

プライベート通信設定状態を表示します。

P：プライベート通信設定が有効　　：プライベート通信設定が無効

⑧ リモートコントロール

リモートコントロールが設定されているときに表示します。（37ページ）

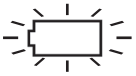
（点灯）：リモートコントロール設定がON

（点滅）：リモートコントロール通信中

（消灯）：リモートコントロール設定がOFF

電源ランプ表示について

電源ランプでは、電源のON／OFFの状態および電池残量を色で表示します。
また、液晶の電池残量アイコンでも電池の残量状態を表示します。

電源ランプの状態	電池残量アイコン表示	電池残量（使用可能時間の目安）		
		電池の残量	アルカリ乾電池	ニッケル水素電池
緑色点灯		約100 %～75 %	約3時間45分以上	約5時間15分以上
		約75 %～50 %	約2時間30分以上	約3時間30分以上
		約50 %～25 %	約1時間15分以上	約1時間45分以上
橙色点灯		約25 %未満	残量が少なくなっています	残量が少なくなっています
赤色点灯		残量がありません。電池を交換してください。		
消灯	消灯	電源OFF状態		

- 電源ランプが赤色点灯のとき、電池残量のアイコンが点滅表示します。
- 電源ランプが点滅しているときは、本機が電波を送信しないモードになっていることを示しています。
- 上記の使用時間は、常温（25 ℃）においてアルカリ乾電池LR6（XJ）、ニッケル水素電池BK-3HCDを連続使用した場合の時間です。（送信出力設定10 mW、液晶バックライトOFF、リモートコントロール設定OFF設定時）
- 電池残量を正しく表示するために、ご使用になる電池に合わせて電池タイプを設定してください。工場出荷設定状態はアルカリ乾電池です。

重要

- 電池の電極や電池ホルダーの端子は汚れた手で触れないようにし、きれいな状態で使用してください。電池残量が正しく表示されないなどの原因になります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。
- ニッケル水素電池は繰り返し使用すると劣化するため電池の残量を正しく表示できなくなります。ニッケル水素電池を使用時に「電池の残量」表示が正しく表示されず電池の使用時間も短くなった場合は電池が劣化していますので、新しい電池に交換してください。

ピーク表示ランプの表示について

ピーク表示ランプは、音声の入力レベルを点灯色でお知らせします。
ピーク表示ランプの点灯色については、以下のとおりです。

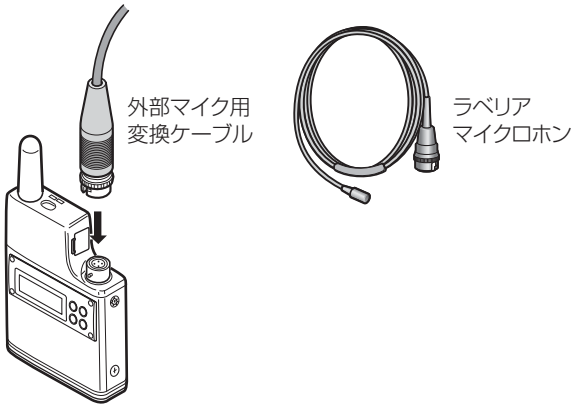
ピーク表示ランプの状態	本機の状態	対応方法
赤色点灯	最大入力レベルに対して0 dB ～-6 dBの音声が入力されています。	34ページの「入力感度を設定する」をお読みのうえ、調節してください。
橙色点灯	最大入力レベルに対して-6 dB～-12 dBの音声が入力されています。	
緑色点灯	最大入力レベルに対して-12 dB～-35 dBの音声が入力されています。	
消灯	最大入力レベルに対して-35 dB未満の音声が入力されています。	

音声入力コネクターの接続

音声入力コネクターにラベリアマイクロホン（付属品）または外部マイク用変換ケーブル（付属品）を接続します。
外部マイク用変換ケーブル（付属品）を使用すると、一般の有線マイクロホンを使用できます。

1 ラベリアマイクロホン、または外部マイク用変換ケーブルを音声入力コネクターに接続する

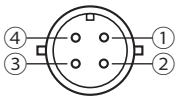
● ケーブルを接続し、右に回してロックします。



2 ラベリアマイクロホン、または外部マイク用変換ケーブルを外す

● ケーブルを左に回し、ロックを解除してから、取り外します。

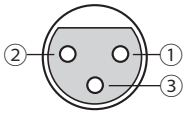
＜音声入力コネクターピン配列＞



①ホット（コンデンサーマイクロホン用音声入力）
②ホット（一般有線マイクロホン用音声入力）
③+5 V
④シールド（GND）
（①、②、③：コンデンサーマイクロホン
②、④：一般有線マイクロホン）

※ラベリアマイクロホン（付属品）はコンデンサーマイクロホンです。

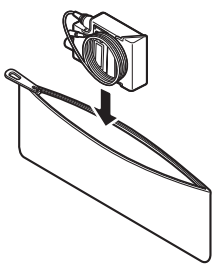
＜外部マイク用変換ケーブル　XLR-3-11C側ピン配列＞



①シールド（③GNDと共通）
②ホット（一般有線マイクロホン用音声入力）
③GND

重要

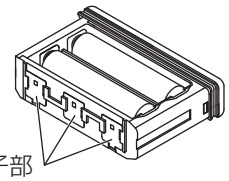
● 本機を収納するときは、音声入力コネクター保護のため、ケーブルをできるだけ外さないで付属のソフトケースに収納してください。
※ケーブルを本機に巻き付けたり、不用意にねじったりして収納するとケーブルを傷めてしまうため、やめてください。



電池を入れる／電池を取り出す

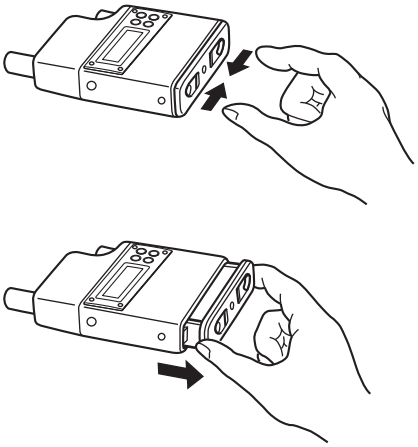
本機の電源が入っているときに電池ホルダーを取り外しする場合は、クリック音防止のため、アンプやミキサーなどのボリュームをしぼってから行ってください。クリック音を発生させたくない場合などは、電源スイッチで電源を切ってから（18ページ）電池ホルダーの取り外しを行ってください。

- 電池の電極や電池ホルダーの端子（右図）は汚れた手で触れないようにし、きれいな状態で使用してください。接触不良や雑音、電池残量が正しく表示されないなどの原因となります。汚れたときは乾いた柔らかい布などでよく磨いてください。
- 2週間以上使用しないときは、電池を取り出してください。
- 本機では、単3形アルカリ乾電池、または単3形ニッケル水素電池を使うことができます。
  電源ランプなどでの電池残量を正しく表示するため、ご使用になる電池に合わせて、本機の設定で電池タイプを設定してください。（35ページ）
  工場出荷設定状態は単3形アルカリ乾電池です。（54ページ）


端子部
（電池ホルダー）

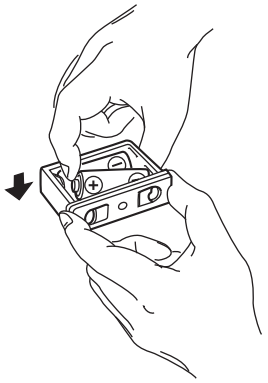
1 電池ホルダーを外す

- 底面のつまみ2か所を内側にスライドさせると、電池ホルダーが手前に出てきます。そのまま引き抜いてください。



2 電池ホルダーに電池を入れる

- 単3形電池2個を電池ホルダーの＋、－の表示に合わせ、－側より挿入します。



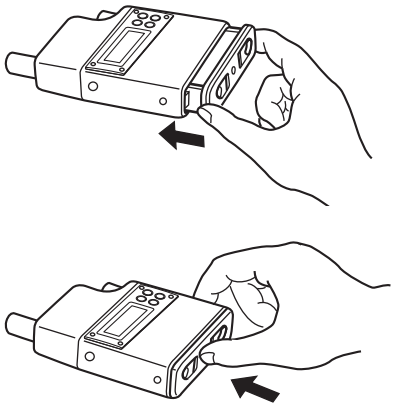
3 電池を取り出す場合

電池を入れるときと同じ手順で電池ホルダーを外し、
電池を取り出します。

- 電池を取り出すときは、電池を－側に押しながら、
  ＋側から取り出します。

4 電池ホルダーを元どおりに取り付ける

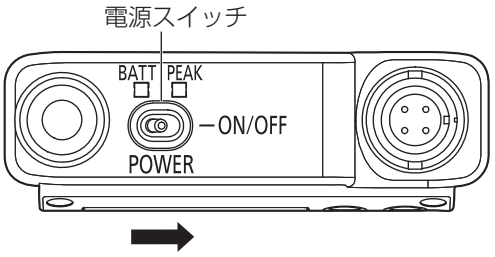
- 電池ホルダーをカチッと音がしてロックするまで、
  しっかり押し込みます。
  ※電池ホルダーはどちらの向きでも取り付けることができます。



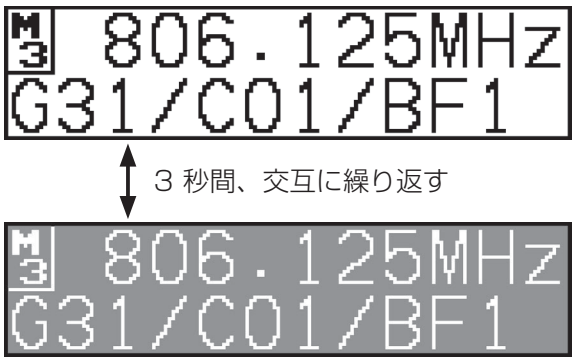
電源をONにする／電源をOFFにする

1 電源をONにする

電源スイッチを0.1秒程度、右側に倒します。
電源がONになると、電源ランプが点灯し（14ページ）、液晶表示が表示されます。

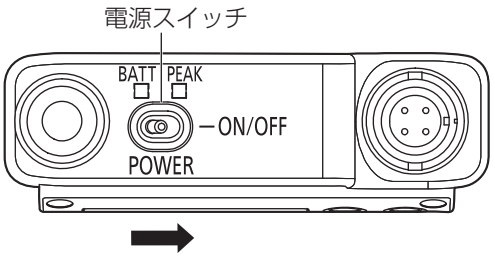


- 電源ON時情報表示が設定されていると（38ページ）、液晶表示は電源ONから3秒間、周波数情報を点滅表示させ、その後、電波の送信を始めます。



2 電源をOFFにする

電源スイッチを2秒以上、右側に倒します。
電源がOFFになると、電源ランプと液晶表示が消灯します。



スタンバイモードについて

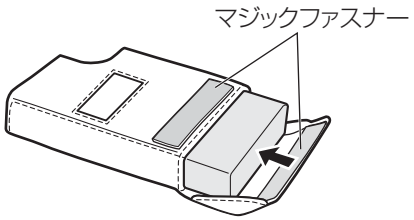
本機にスタンバイモードが設定されている場合、Bluetoothを通じて受信機から電源を入れることができます。
また、本機の電源スイッチで電源をOFFしても電源が切れずに電池を消費しますのでご注意ください。
スタンバイモードの詳細については、42ページをお読みください。

本機をベルトに装着する

まず、本機をベルトケースに取り付け、ベルトに取り付けます。

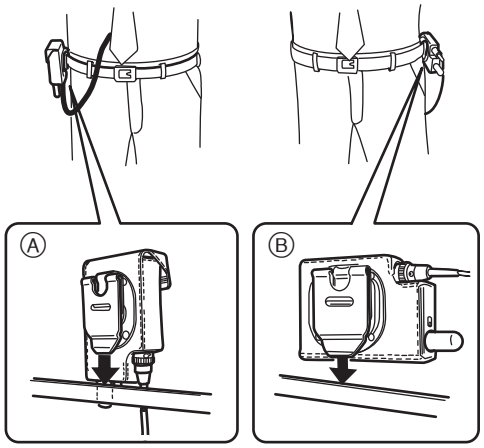
1 ベルトケースに取り付ける

● ベルトケースの底面を開け、本機を挿入します。



2 ベルトに装着する

● 本機はベルトケースに入れ、クリップでズボンのベルトに取り付けてご使用ください。
※ベルトケースのつまみを押すと、クリップが回転し、90゜おきにロックしますので、使いやすい方向に設定してください。



重要

- 装着する向きによっては、着席したときなど、アンテナやマイクのケーブルが椅子などに当たって断線などのトラブルの原因となります。運用の状況に応じて、適した向きに設定し、装着してください。
- 操作部に水がかかると、内部に水が侵入し、故障の原因となります。Ⓐ図のように、操作面を下向きに装着することをおすすめします。
- 上図のように、ベルトの上方向から取り付け、ベルトに固定されていることを確認し、落下しないようにしてください。
- 高所で使用する場合は、取り扱いに十分ご注意ください。
落下すると、けがや製品の故障の原因となります。

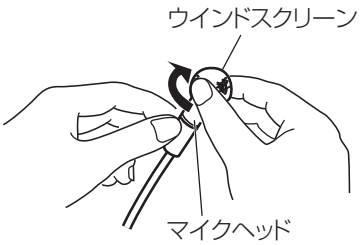
マイククリップを取り付ける

- 付属のネクタイピン型マイククリップは、縦型と横型の2種類がありますので、用途に合わせてご使用ください。クリップの取り付けはスプリング部分をつまみ、スプリング内径を広げてマイクヘッドのストッパー溝に合わせて取り付けてください。
- マイク部は、マイククリップでネクタイや襟などにとめてください。とめる位置はできるだけ口もとに近い方が、より明瞭な音質が得られます。
  ※マイクロホンに大きな音が連続的に入ると音がひずみます。

ウインドスクリーンを取り付ける

付属のラベリアマイクロホンを取り付けて本機を屋外、または風の多いところでご使用になるときは、必ずウインドスクリーンを取り付けてご使用ください。ウインドスクリーンの取り付けは、ウインドスクリーンの根元（樹脂部）を持って静かにマイクヘッドに挿入してください。
外すときも同様に、静かに抜いてください。

※ウインドスクリーンは長期使用により劣化する消耗品です。交換は販売店に依頼してください。



はじめて使用するとき

はじめて本機を使うときは、以下の手順で設定を行ってください。

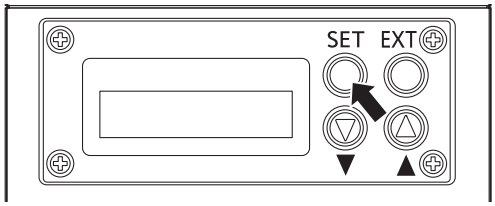
電池を入れる（16ページ）
↓
電源をONにする（18ページ）
↓
周波数を設定する（32・33ページ）
遅延（SHORT／LONG）を設定する
グループを設定する
↓
チャンネルを設定する
↓
本機を装着する
本機をベルトに装着する（19ページ）
マイククリップを取り付ける（20ページ）
ウィンドスクリーンを取り付ける（20ページ）

その他の詳細な設定については、「設定モード」（31ページ）をお読みください

■周波数を設定する（32・33ページ）

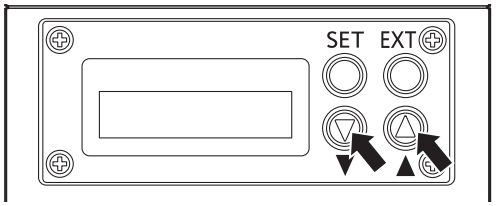
1 本機を設定モードにする

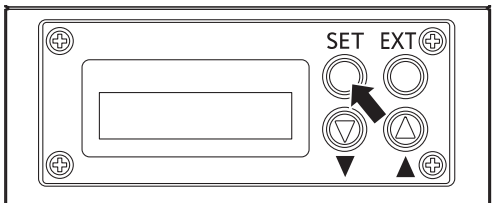
簡易画面表示から設定モードにするには、UPボタン［▲］またはDOWNボタン［▼］を1回押した後に設定ボタン［SET］を長押しします。



2 LATEN.・FREQを選択する

UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押して、「LATEN.・FREQ」を表示させ、設定ボタン［SET］を押します。

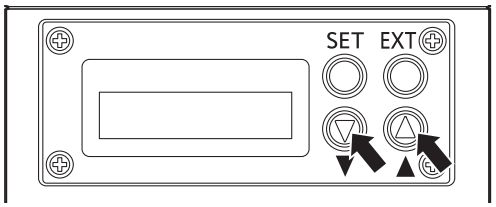


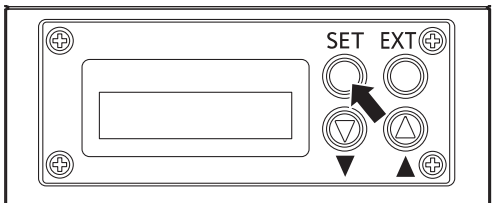


3 遅延（SHORT／LONG）を選択する

UPボタン[▲]、DOWNボタン[▼]を押して「SHORT」または「LONG」を選択し、設定ボタン［SET］を押します。
注）必ず、受信機と同じ設定にしてください。

SHORT：ショート（1.3 msec遅延）
LONG　：ロング（2.9 msec遅延）

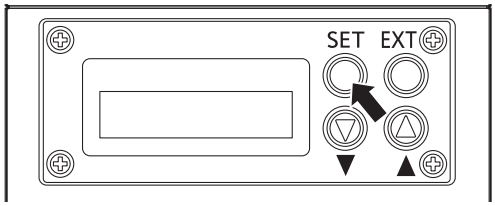


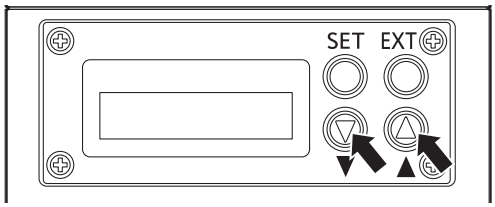


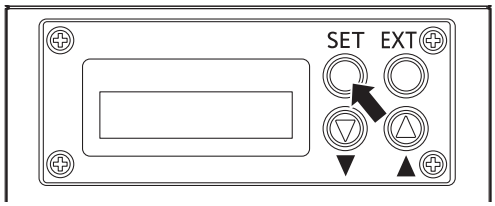
4 グループを選択する

遅延を選択すると、そのまま周波数設定の設定画面に切り替わります。
設定ボタン［SET］を2回押して、グループ番号の選択にカーソルを移動させます。
UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押して、受信機と同じグループ番号を選択し、設定ボタン［SET］を押します。

グループ番号を選択すると、周波数の表示が該当する周波数に変わり、チャンネル呼称が該当する番号に変わります。



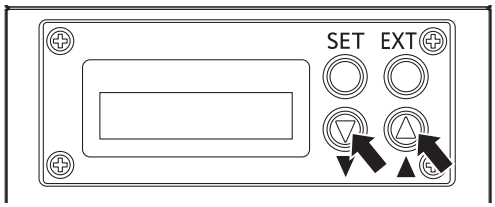


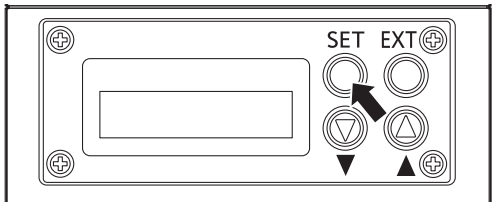


5 チャンネルを選択する

グループ番号を選択すると、そのままチャンネル番号にカーソルが移動します。
UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押して、受信機と同じチャンネル番号を選択し、設定ボタン［SET］を押します。

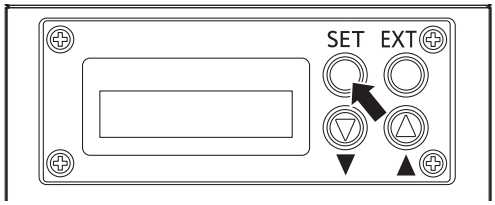
チャンネル番号を選択すると、周波数の表示が該当する周波数に変わり、チャンネル呼称が該当する番号に変わります。





6 周波数の選択を確定させる

チャンネル番号を選択したら、再度設定ボタン［SET］を押して、周波数の設定を確定させます。液晶画面が、再度「LATEN.・FREQ」に戻ります。



本機の各モード

本機には、通常にご使用のときのモードの他にいろいろなモードがあります。
ここでは、本機の各モードについて、説明します。

■ 運用モード（26ページ）

- 通常に使用するときのモードです。
- 液晶表示は、運用表示と設定確認があります。

■ 簡易設定モード（30ページ）

- 運用モード（簡易表示）から遷移し、設定を行うモードです。
- このモードのときは、電波が送信されています。

■ 設定モード（31ページ）

- グループやチャンネルなど、本機の設定を行うモードです。
- このモードのときは、電波が送信されています。

■ クイック設定モード（41ページ）

- メモリーモードで設定した設定画面を呼び出して、すばやく設定ができるモードです。
- このモードのときは、電波が送信されています。

■ スタンバイモード（42ページ）

- Bluetoothを通じて受信機から電源操作をした場合の待ち受け状態（電源OFF状態）のモードです。スタンバイ設定が「ON」に設定されている場合に、本機で電源をOFFしたときもこのスタンバイモードになります。
- このモードのときは、電波が送信されていません。

■ キャリアOFF設定モード（42ページ）

- 設定モードと同じように本機の設定を行うモードですが、このモードのときは、本機は電波を送信しません。

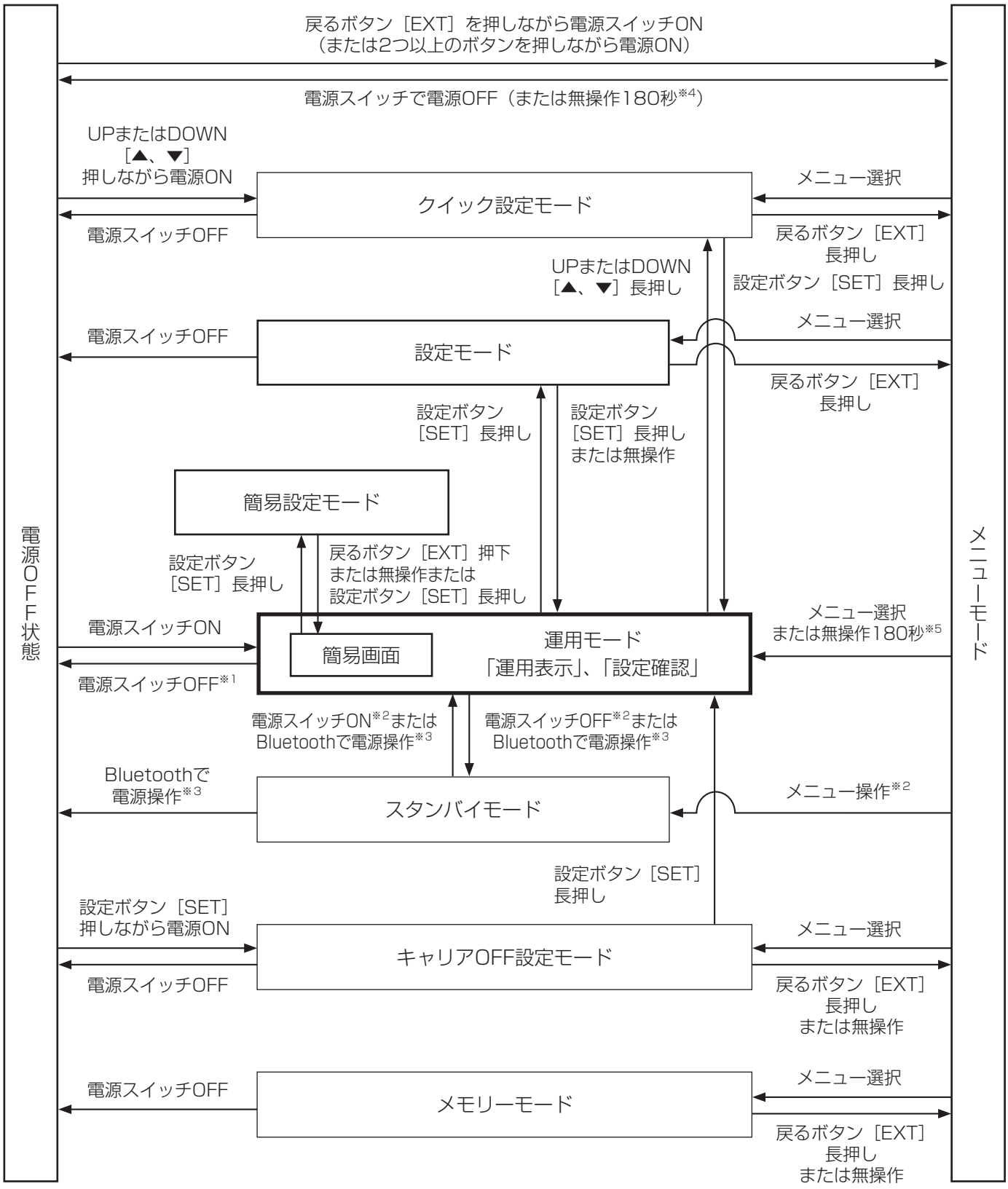
■ メモリーモード（43ページ）

- 本機の設定パターンを保存したり、保存された設定パターンを呼び出して本機に設定したりすることができるモードです。
- このモードのときは、本機は電波を送信しません。

■ メニューモード（49ページ）

- 上記の各モードを選択するためのモードです。
- 電波の送信、非送信の状態は、このモードになる前の状態を維持します。

■ 各モードへの遷移方法



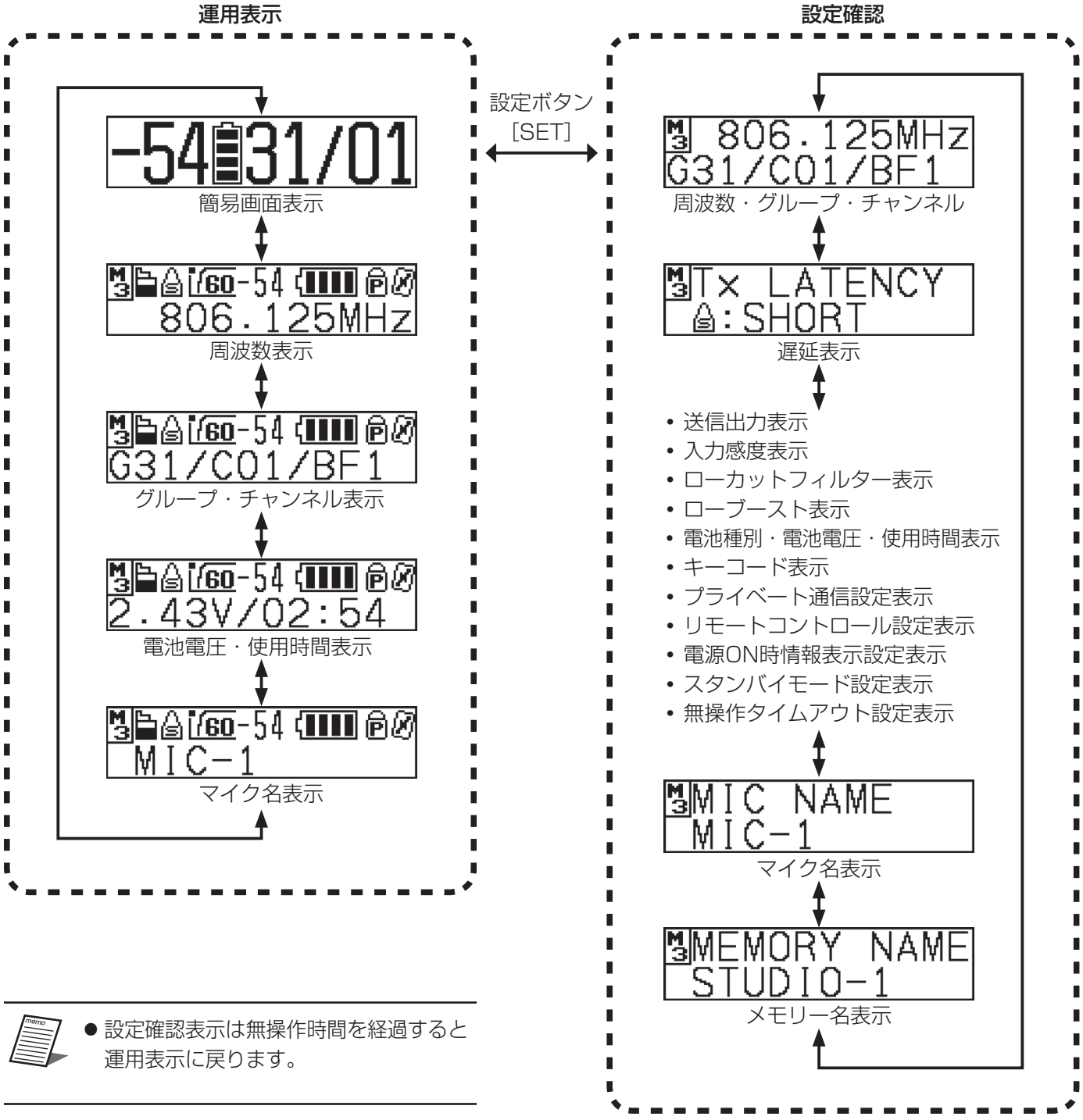
※1 スタンバイ設定が「OFF」のとき
※2 スタンバイ設定が「ON」のとき
※3 スタンバイ設定およびリモートコントロール設定が「ON」のとき
※4 電波を送信していないとき
※5 電波を送信しているとき

運用モード

運用モードは、本機の通常使用時のモードです。

■ 運用モードの画面切り換え

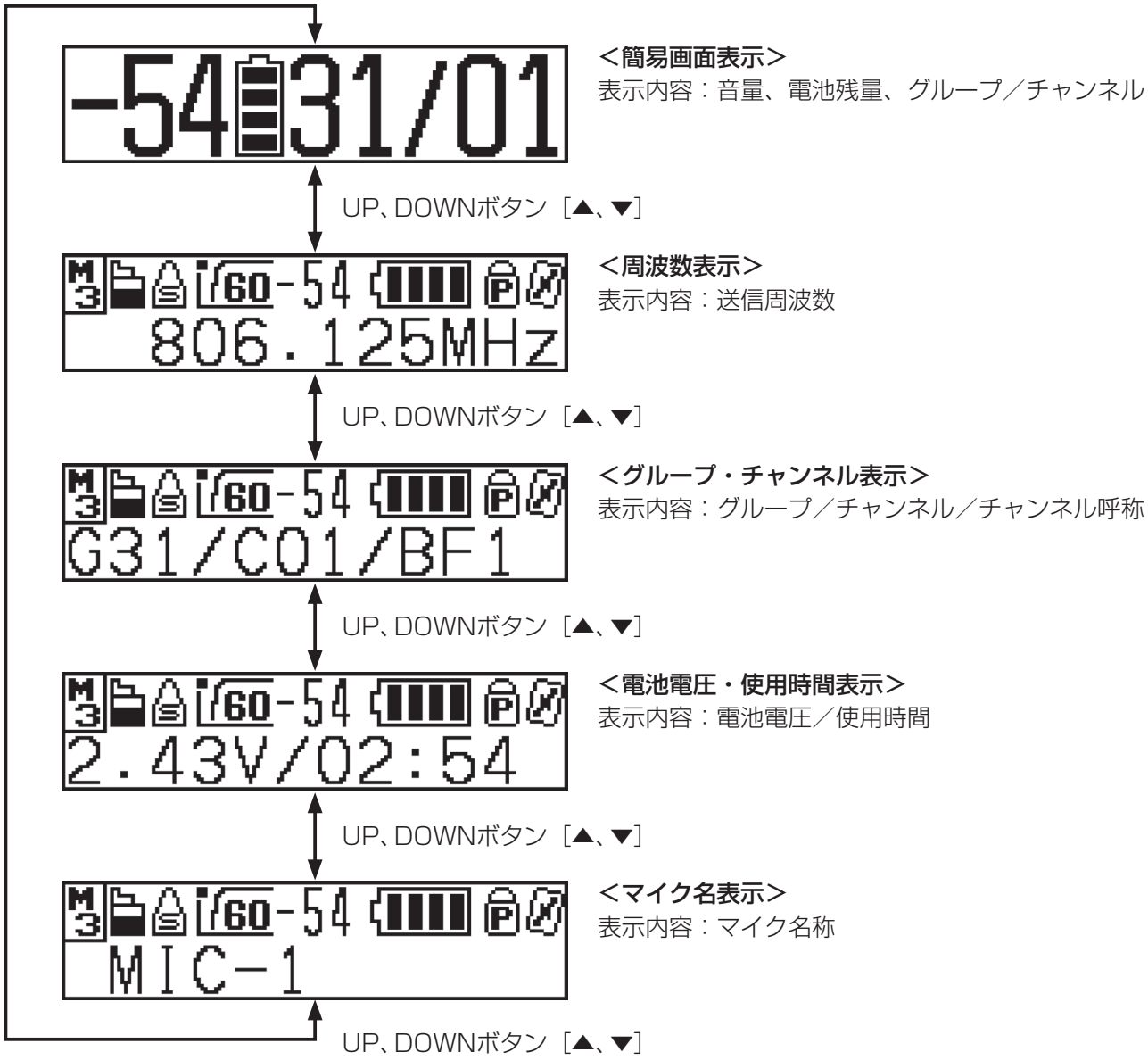
運用モードの液晶表示には、運用状態を表示する「運用表示」と設定状態を表示する「設定確認」の表示があります。
「運用状態」と「設定確認」は設定ボタン［SET］で切り換えます。
運用モードの各表示では、UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押して画面を遷移します。



● 設定確認表示は無操作時間を経過すると運用表示に戻ります。

■ 運用モード「運用表示」の液晶表示

運用モードでご使用中に、UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押すと、本機の液晶表示は、下記のように遷移します。



＜簡易画面表示＞
表示内容：音量、電池残量、グループ／チャンネル

＜周波数表示＞
表示内容：送信周波数

＜グループ・チャンネル表示＞
表示内容：グループ／チャンネル／チャンネル呼称

＜電池電圧・使用時間表示＞
表示内容：電池電圧／使用時間

＜マイク名表示＞
表示内容：マイク名称

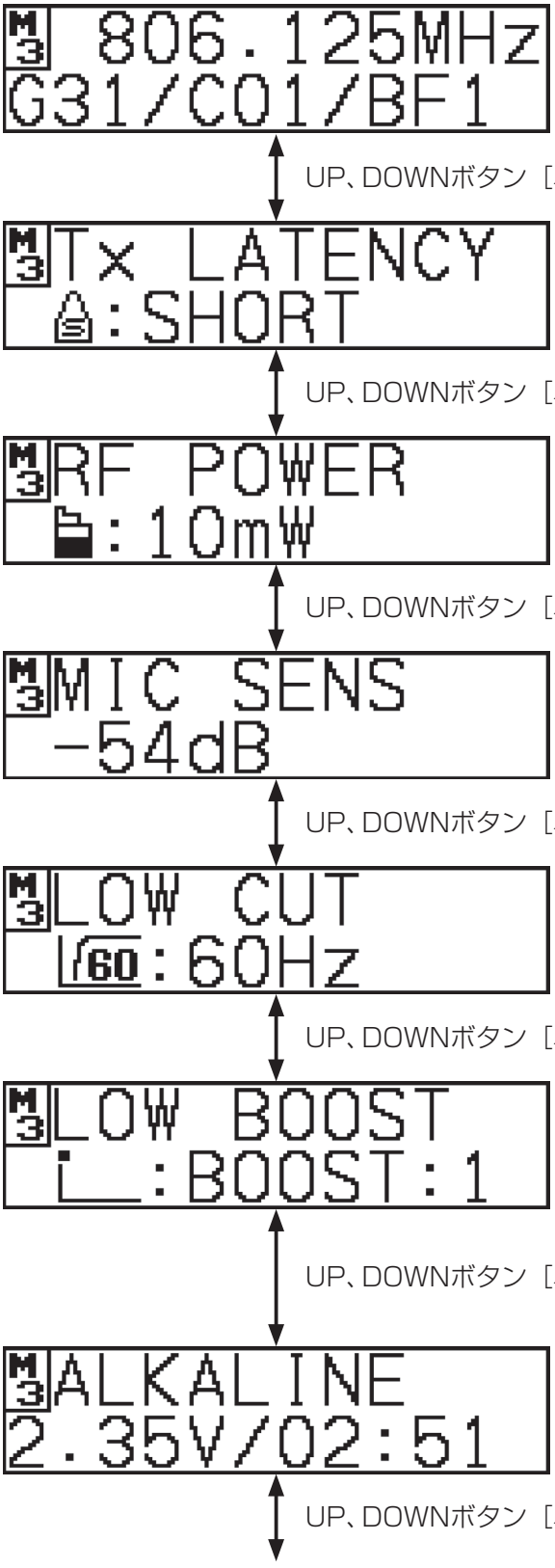
● 電源をONしたときの表示は、電源をOFFしたときの画面になります。
● 戻るボタン［EXT］で簡易画面になります。

■ 使用時間

使用時間は、電波送信中の累積時間を、時・分単位で表示します。（送信していないときは、30秒毎に1秒カウントアップします）
ゼロリセットするためには、設定モードでリセットをしてください。（35ページ）（電源を切っても、リセットされません）
注）99時間59分に達したら、そのまま表示を停止します。再び時間を計測するときは、リセットしてください。

■ 運用モード「設定確認」の液晶表示

通常の液晶表示の状態で設定ボタン［SET］を押すと、さらに詳細な本機の設定状態を表示します。UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押すことで表示が下記のように遷移します。



＜周波数・グループ・チャンネル表示＞
表示内容：（上段）送信周波数
（下段）グループ／チャンネル／チャンネル呼称

＜遅延表示＞
表示内容：設定している遅延モード
設定候補：SHORT／LONG

＜送信出力表示＞
表示内容：設定している送信出力
設定候補：2 mW／10 mW

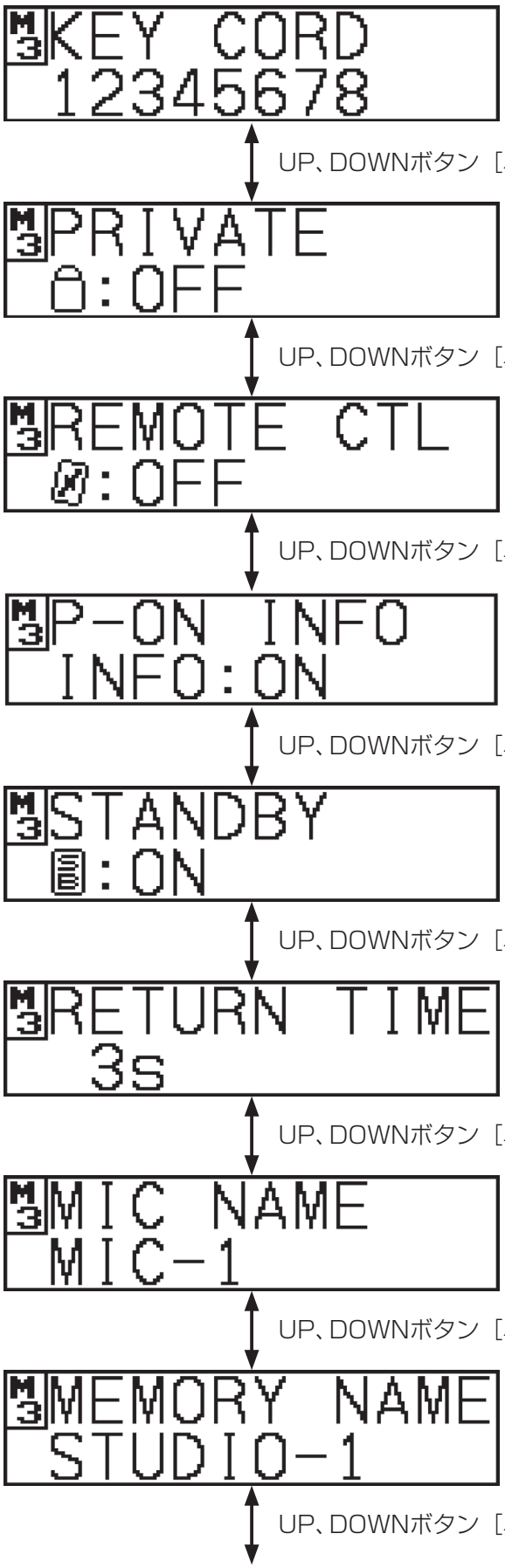
＜入力感度表示＞
表示内容：設定している入力感度
設定候補：-30～-80 dB（1 dBステップ）、+4 dB（LINE）

＜ローカットフィルター表示＞
表示内容：設定しているローカットフィルター値
設定候補：OFF／60 Hz／80 Hz／100 Hz／125 Hz

＜ローブースト表示＞
表示内容：設定しているローブースト種別
設定候補：OFF
／BOOST：1　：180 Hz/+1.5 dB
／BOOST：2　：250 Hz/+2.5 dB

＜電池タイプ・電池電圧・使用時間表示＞
表示内容：（上段）設定している電池種別
（下段）電池電圧／使用時間
設定候補：ALKALINE／Ni-MH

●「設定確認」の各表示状態で設定ボタン［SET］を長押しするとその表示項目の設定変更状態になります。ただし、「メモリー名表示」では設定ボタン［SET］の長押しは無効です。



＜キーコード表示＞
表示内容：設定しているキーコード
設定候補：8桁の英数字、記号

＜プライベート通信設定表示＞
表示内容：設定しているプライベート通信設定
設定候補：OFF／ON

＜リモートコントロール設定表示＞
表示内容：設定しているリモートコントロール設定
設定候補：OFF／ON

＜電源ON 時情報表示設定表示＞
表示内容：設定している電源ON 時情報表示設定
設定候補：OFF／ON

＜スタンバイモード設定表示＞
表示内容：設定しているスタンバイモード設定
設定候補：OFF／ON

＜無操作タイムアウト時間設定表示＞
表示内容：設定している無操作タイムアウト時間設定
設定候補：3秒／6秒／12秒／30秒

＜マイク名称表示＞
表示内容：設定しているマイク名称
設定候補：8桁の英数字、記号

＜メモリー名称表示＞
表示内容：設定しているメモリー名称
設定候補：8桁の英数字、記号

＜周波数・グループ・チャンネル表示＞に戻る

簡易設定モード

簡易設定モードは本機でよく使う設定をするためのモードです。
運用モードの簡易画面表示中に設定ボタン[SET]を長押しして、簡易設定モードにします。

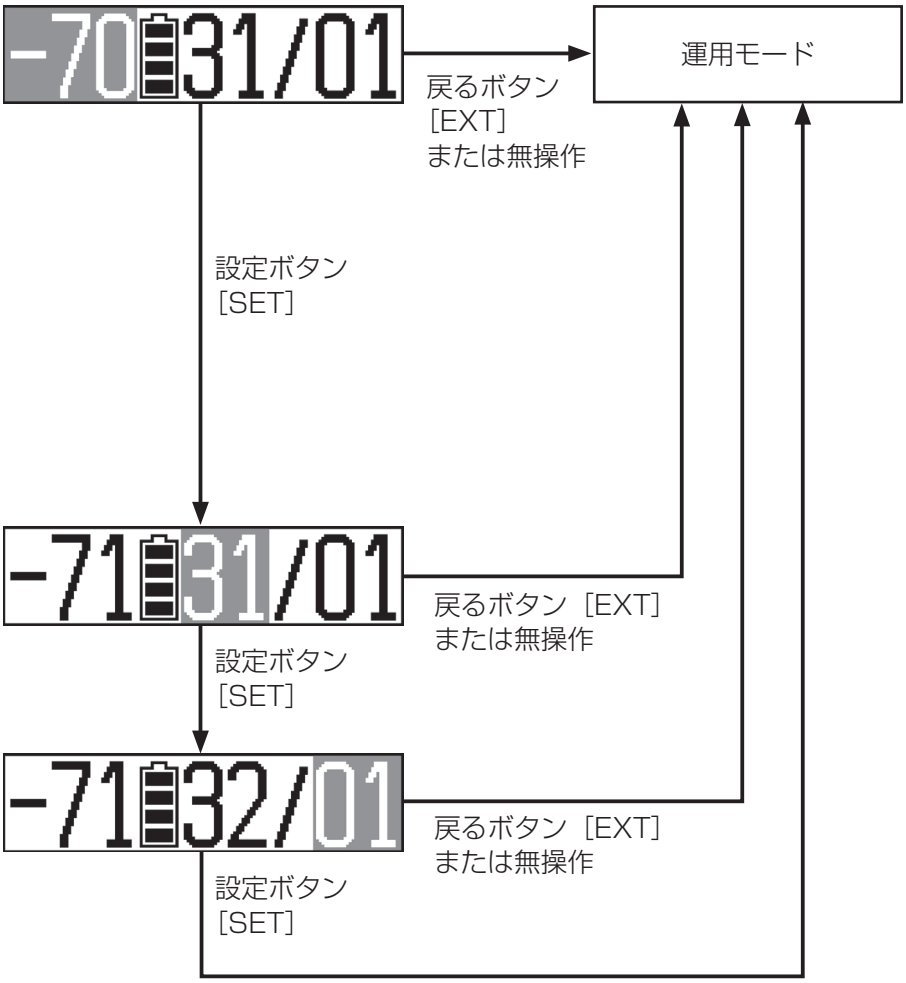
設定項目は、下表のとおりです。
各項目は、UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押して選択します。

■ 簡易設定モード：項目一覧

液晶表示	項目	設定値	
MIC SENS	入力感度設定	-30 dB～-80 dB（1 dBステップ）、+4 dB（LINE）	
GROUP・CH	グループ・チャンネル設定	グループ	G31～G33
		チャンネル	C01～C10

■ 音量、グループ・チャンネルを設定する

下記のように画面遷移しますので、各項目を設定します。



1．音量設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、-30 dB～-80 dB（1 dBステップ）、+4 dB（LINE）から選択して設定します。

注）音量は、UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押すと、すぐに音量に反映されます。戻るボタン［EXT］で設定を戻すことはできません。また、上限値（下限値）でUP（DOWN）ボタン［▲］（［▼］）を押しても設定値は変わりません。

2．グループ設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、グループを設定します。

3．チャンネル設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、グループの中のチャンネルを設定します。

注）設定ボタン［SET］が押されたときに設定されます。戻るボタン［EXT］が押されたときや無操作で抜ける場合は設定しないで、簡易画面に戻ります。

必要なとき

設定モード

設定モードは、本機の設定をするためのモードです。
設定モードにするには、以下の3通りの方法があります。
- 運用モード中に設定ボタン［SET］を長押しする。
- 簡易画面表示中に、UPボタン［▲］またはDOWNボタン［▼］を1回押した後に設定ボタン［SET］を長押しする。
- メニューモードのメニューから設定モードを選択する。

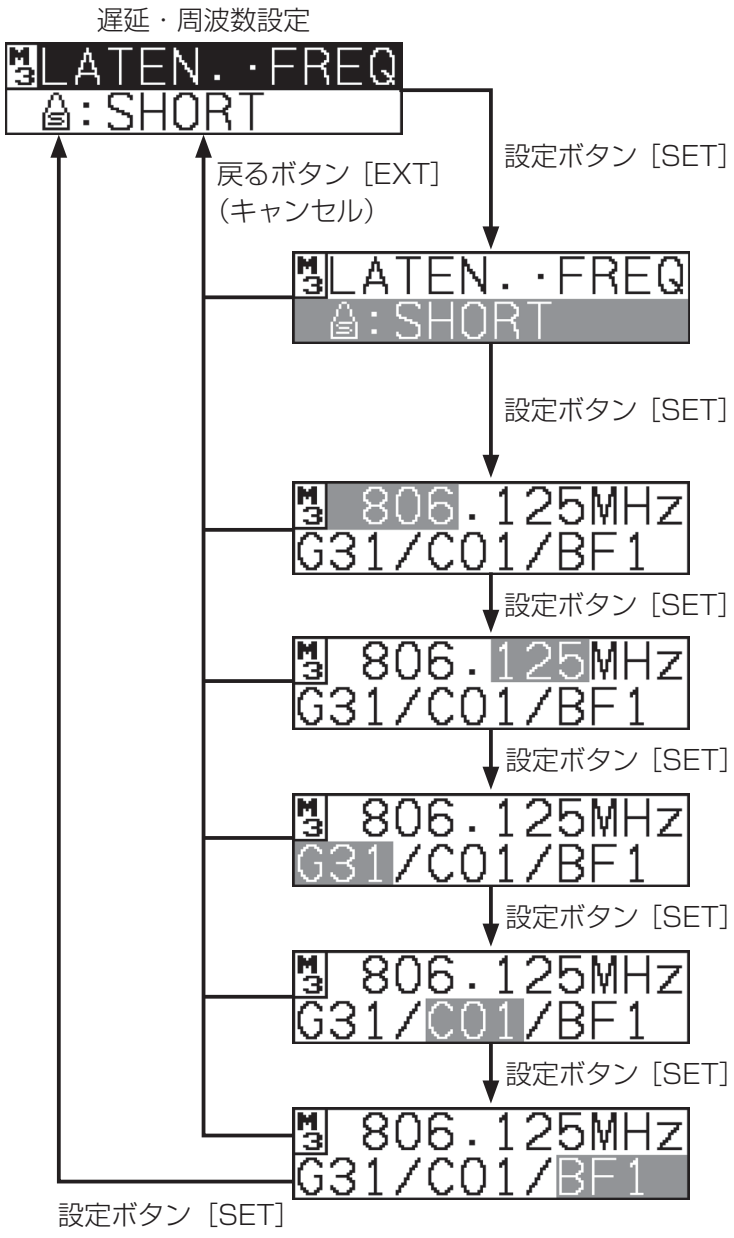
設定項目は、下表のとおりです。
各項目は、UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押して選択します。

■ 設定モード：項目一覧

液晶表示	項目	設定値		参照ページ
LATEN.・FREQ	遅延・周波数設定	遅延	ショート［SHORT］／ロング［LONG］	32
		周波数	806.125 MHz～809.750 MHz（125 KHzステップ）	32
		グループ	G31～G33	32
		チャンネル	C01～C10	32
		チャンネル呼称	BA1～BA5／BB1～BB5／BC1～BC5／BD1～BD5／BE1～BE5／BF1～BF5	32
FREQ	周波数設定	周波数	806.125 MHz～809.750 MHz（125 KHzステップ）	33
GROUP・CH	グループ・チャンネル設定	グループ	G31～G33	33
		チャンネル	C01～C10	33
RF POWER	送信出力設定	2 mW／10 mW		33
MIC SENS	入力感度設定	-30 dB～-80 dB（1 dBステップ）、+4 dB（LINE）		34
LOW CUT	ローカットフィルター設定	OFF／60 Hz／80 Hz／100 Hz／125 Hz		34
LOW BOOST	ローブースト設定	OFF／BOOST：1（180 Hz/+1.5 dB）／BOOST：2（250 Hz/+2.5 dB）		34
BATT TYPE	電池タイプ設定	アルカリ［ALKALINE］／ニッケル水素電池［Ni-MH］		35
METER RST	使用時間ゼロリセット	[NO hh：mm]／[YES hh：mm]		35
KEY CODE	キーコード設定	8桁以内（英数字＋記号）		36
PRIVATE	プライベート通信設定	ON／OFF		36
REMOTE CTL	リモートコントロール設定	OFF／ON／PAIRING		37
P-ON INFO	電源ON時情報表示設定	ON／OFF		38
STANDBY	スタンバイモード設定	ON／OFF		38
RETURN TIME	無操作時タイムアウト設定	3 S／6 S／12 S／30 S		38
MIC NAME	マイク名設定	8桁以内（英数字＋記号）		39
TEST VOICE	テスト音声信号送信	OFF／VOICE		40

■ 遅延・周波数を設定する

設定モードで「LATEN.・FREQ」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、各々の項目で必要な設定をします。



1．遅延設定（SHORT／LONG）
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、遅延を設定します。（必ず受信機と同じ設定にしてください。）
SHORT ：ショート（1.3 msec遅延）
LONG　：ロング（2.9 msec遅延）

2．周波数（小数点以上）設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、周波数の小数点以上の桁を設定します。

3．周波数（小数点以下）設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、周波数の小数点以下の桁を設定します。

4．グループ設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、グループを設定します。

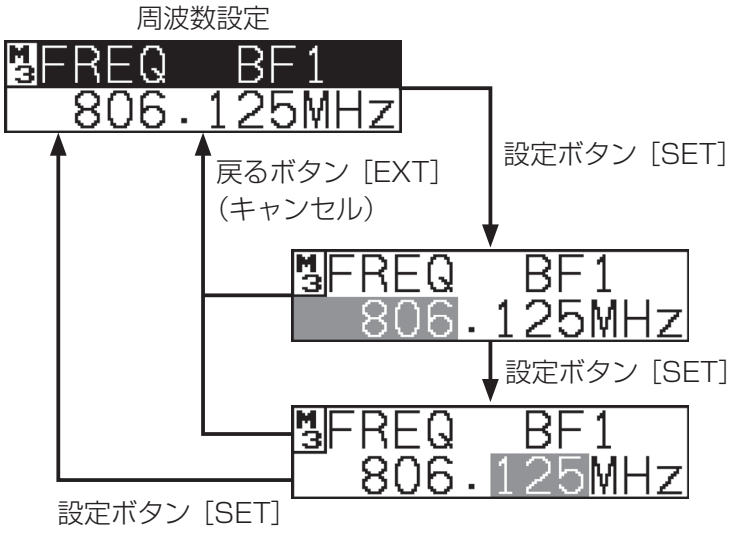
5．チャンネル設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、グループの中のチャンネルを設定します。

6．チャンネル呼称設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、チャンネル呼称を設定します。

注） 周波数、グループ、チャンネル、チャンネル呼称の設定は、いずれかの設定を変更するとその他の設定も対応した値に自動的に変更されます。

■ 周波数を設定する

設定モードで「FREQ」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、各々の項目で必要な設定をします。

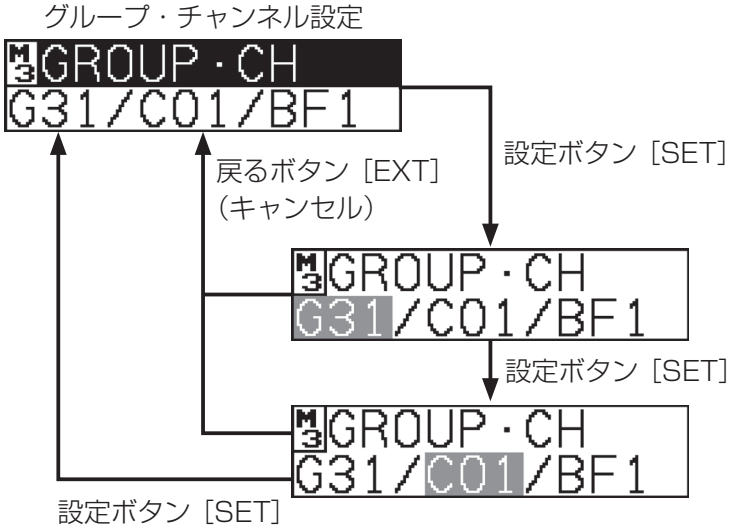


1．周波数（小数点以上）設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、周波数の小数点以上の桁を設定します。

2．周波数（小数点以下）設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、周波数の小数点以下の桁を設定します。

■ グループ・チャンネルを設定する

設定モードで「GROUP・CH」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、各々の項目で必要な設定をします。

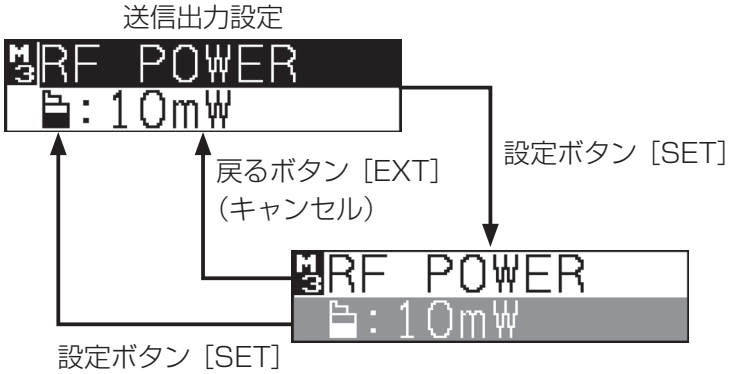


1．グループ設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、グループを設定します。

2．チャンネル設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、グループの中のチャンネルを設定します。

■ 送信出力を設定する

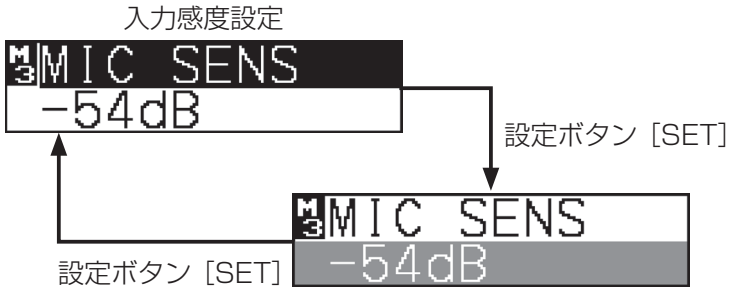
設定モードで「RF POWER」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、2 mW、10 mWから選択して設定します。



1．送信出力設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、2 mW、10 mWから選択して設定します。

■ 入力感度を設定する

設定モードで「MIC SENS」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、-30 dB～-80 dB（1 dBステップ）、+4 dB（LINE）から選択して設定します。

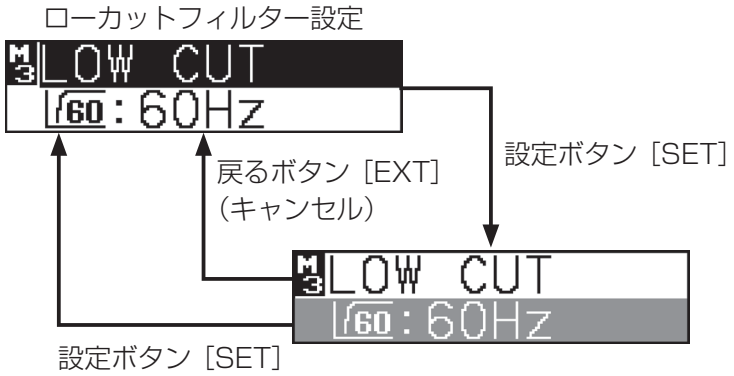


1．入力感度設定
-30 dB～-80 dB、+4 dB（LINE）から選択して設定します。

注） 入力感度は、UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押すと、すぐに音量に反映されます。戻るボタン［EXT］で設定を戻すことはできません。また、上限値（下限値）でUP（DOWN）ボタン［▲］（［▼］）を押しても設定値は変わりません。

■ ローカットフィルターを設定する

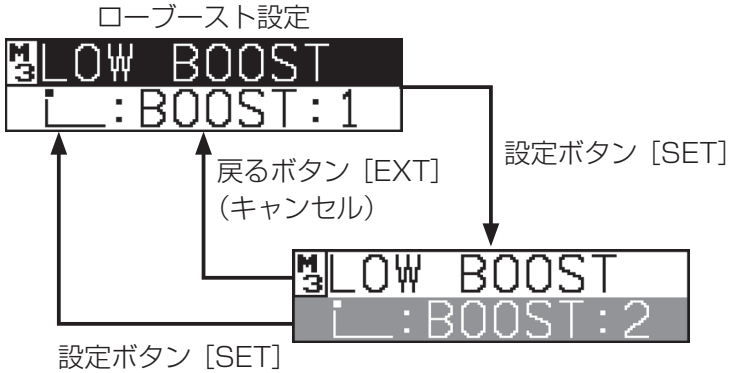
カットオフ周波数を設定すると、12 dB/octのローカットフィルターを使用することができます。設定モードで「LOW CUT」を選択します。下記のように画面遷移しますので、OFF、60 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hzから選択して設定します。



1．ローカットフィルター設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、OFF、60 Hz、80 Hz、100 Hz、125 Hzから選択して設定します。

■ ローブーストを設定する

音声の低域をブーストすることができます。設定モードで「LOW BOOST」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、OFF、BOOST：1、BOOST：2から選択して設定します。

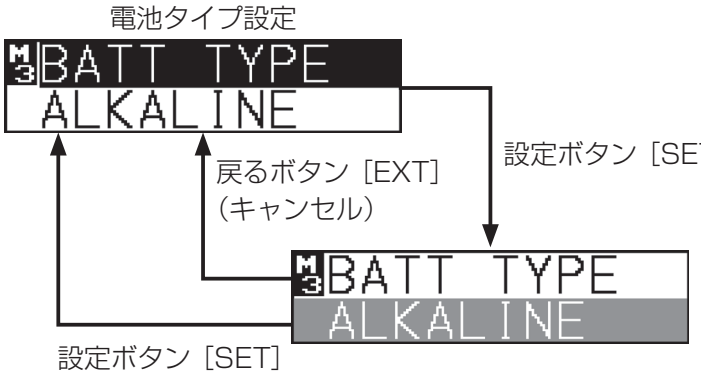


1．ローブースト設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、OFF、BOOST：1、BOOST：2 から選択して設定します。

OFF　　：ブーストしません。
BOOST：1：180 Hz/+1.5 dB/Q=0.8 のフィルター
BOOST：2：250 Hz/+2.0 dB/Q=0.8 のフィルター

■ 電池タイプを設定する

電池残量を正しく表示するために、電池のタイプを設定します。
設定モードで「BATT TYPE」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、ALKALINE、Ni-MHから選択して設定します。

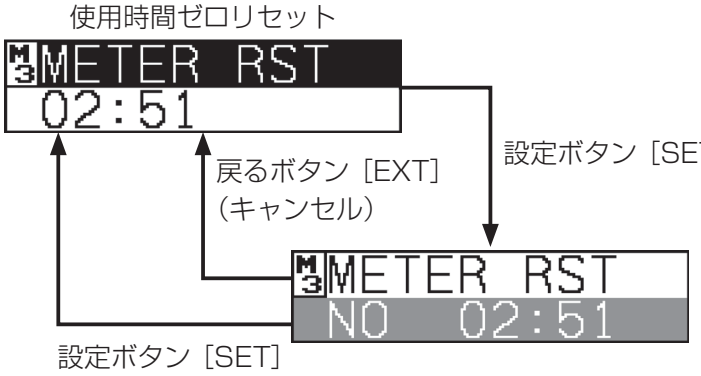


1．電池タイプ設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、
ALKALINE、Ni-MHから選択して設定します。

ALKALINE：アルカリ乾電池
Ni-MH　　：ニッケル水素電池

■ 使用時間をゼロリセットする

使用時間表示の時間を、ゼロリセットします。
設定モードで「METER RST」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、NO、YESから選択して設定します。

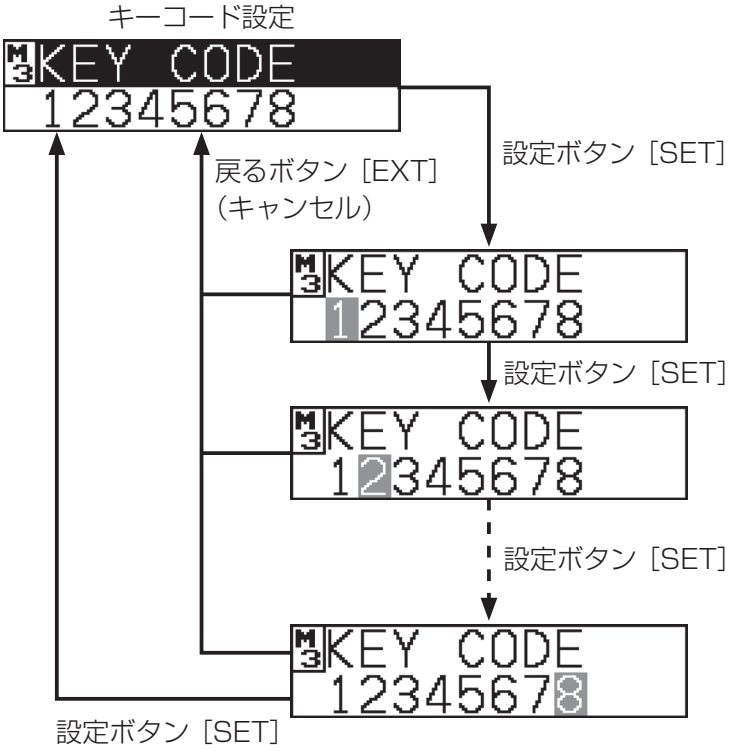


1．使用時間ゼロリセット
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、NO、YES
から選択して設定します。

NO　：使用時間をゼロリセットしない
YES：使用時間をゼロリセットする

■ キーコードを設定する

本機のプライベート通信設定や、受信機のキーコードスケルチ機能を使用にするために、キーコードを設定しておきます。
設定モードで「KEY CODE」を選択します。下記のように画面遷移しますので、8桁すべてに文字を設定します。



1．キーコード1桁目の設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、1桁目を設定します。

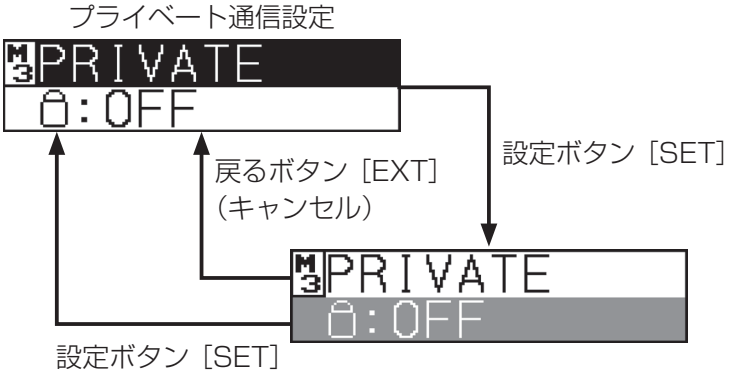
2．キーコード2桁目の設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、2桁目を設定します。

8．キーコード8桁目の設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、8桁目を設定します。

キーコードに設定できる文字は、以下のとおりです。
数字　　：0、1、2、3、4、5、6、7、8、9
アルファベット：A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z
記号　　：!、#、&、$、@、+、-、=、_、（空白スペース）、(、)、[、]、.（ピリオド）、*

■ プライベート通信を設定する

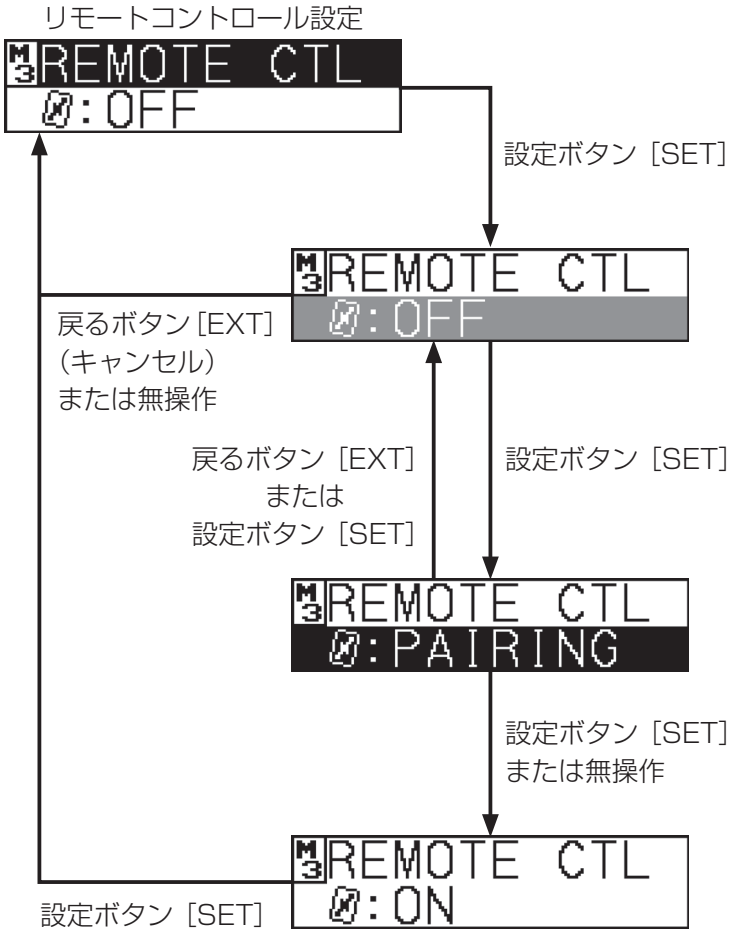
プライベート通信を設定しておくことで、本機と同じキーコードを設定した受信機のみが受信するようにできます。
設定モードで「PRIVATE」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、OFF、ONから選択して設定します。



1．プライベート通信設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、OFF、ONから選択して設定します。

■ リモートコントロールを設定する

リモートコントロールを設定することで、Bluetoothを通じて、受信機から本機を制御することができます。リモートコントロールの設定については、受信機WX-DR131の取扱説明書もお読みください。
設定モードで「REMOTE CTL」を選択します。下記のように画面遷移しますので、OFF、PAIRING、ONから選択して設定します。



<受信機側準備>
受信機の設定モードからマイクリモートコントロール設定（REMOTE CTL）の「PAIRING」をすぐに選択できるようにしておいてください。

1．動作モード設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、動作モードを設定します。受信機とペアリングするために「PARING」を選択してください。
OFF　　：マイクリモートコントロール無効
PAIRING：受信機がマイクをスキャンできる状態にします。
ON　　：マイクリモートコントロール有効

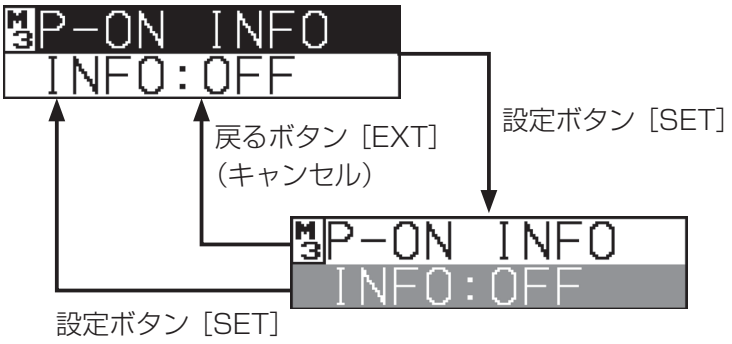
2．ペアリング順番表示中（マイク検出待ち中）の状態で待つ
<受信機操作>
マイク側のペアリング開始後、すぐに受信機側も「PAIRING」を選択してください。マイクスキャン中画面になり、マイクの品番が表示されます。

3．受信機側でマイク品番が表示されたら、マイクを運用モードに戻す
マイク側の表示状態に応じて下記操作をしてください。
①ペアリング中（「PAIRING」が反転表示で順番表示中）の場合、設定ボタン［SET］を押す
②ペアリング項目選択中（「PAIRING」の文字が点滅している状態）の場合、DOWNボタン［▼］で「ON」を選択し、設定ボタン［SET］を押す
③設定モード中（「REMOTE CTL」が反転表示）の場合、設定ボタン［SET］を長押しして運用モードに変える
※時間がたてば自動的に運用モードに戻りますが、リモートコントロール設定がOFFの場合は手動でONにする必要があります。
<受信機操作>
表示中のマイク（品番）を選択すると、受信機側のグループやチャンネルの設定がマイク側に自動反映され、受信機からのマイク感度変更や電源スタンバイ制御も可能になります。

■ 電源ON時情報表示を設定する

通常、本機は電源を入れたときからすぐに電波を送信しますが、本設定をしておくことで、電源を入れたときに周波数情報を点滅して表示してから電波を送信するようにできます。電波を出す前に周波数を確認したいときなどにお使いください。設定モードで「P-ON INFO」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、OFF、ONから選択して設定します。

電源ON時情報表示設定

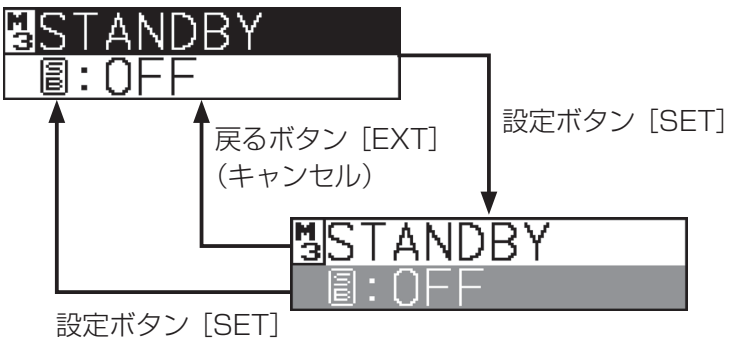


1．電源ON 時状態表示設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、OFF、ONから選択して設定します。

■ スタンバイモード機能を設定する

スタンバイモードをONにしておくことで､受信機から電源を制御することができます。設定モードで「STANDBY」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、OFF、ONから選択して設定します。一度でも受信機からスタンバイ制御が行われるとスタンバイモードはONとなり、OFFにするには手動で設定が必要です。

スタンバイモード設定

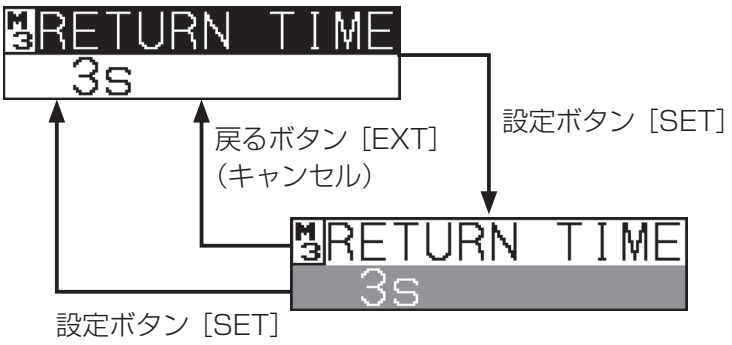


1．スタンバイモード設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、OFF、ONから選択して設定します。

■ 無操作時タイムアウト時間を設定する

無操作状態が続いたときに、運用モードに自動的に戻る時間を設定します。設定モードで「RETURN TIME」を選択します。下記のように画面遷移しますので、3秒、6秒、12秒、30秒から選択して設定します。

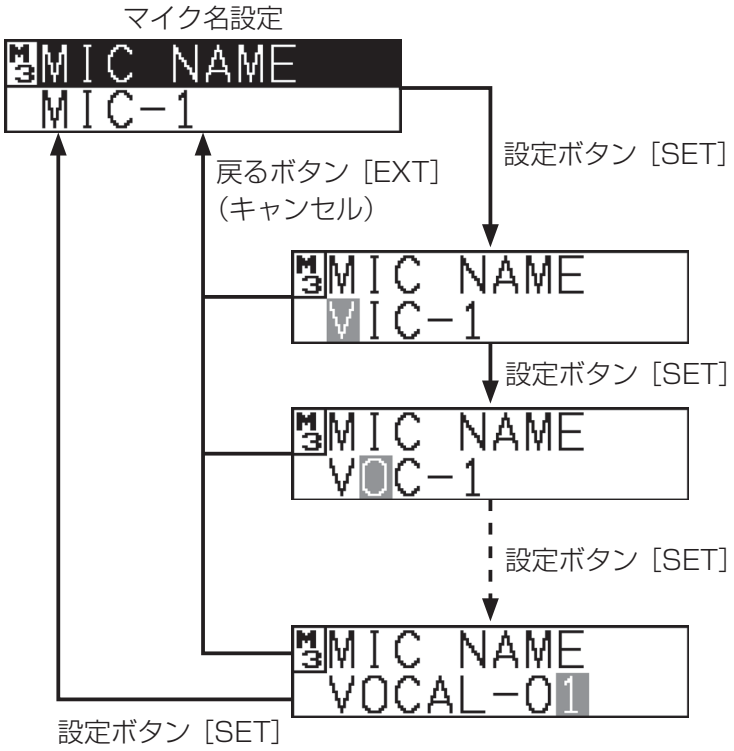
無操作時タイムアウト設定



1．無操作時タイムアウト時間設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、3秒、6秒、12秒、30秒から選択して設定します。

■ マイク名を設定する

マイク名を設定しておくことで、受信機でマイクを識別することができるようになります。設定モードで「MIC NAME」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、文字を設定します。（最大8桁）



1．マイク名称1桁目の設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、1桁目を設定します。

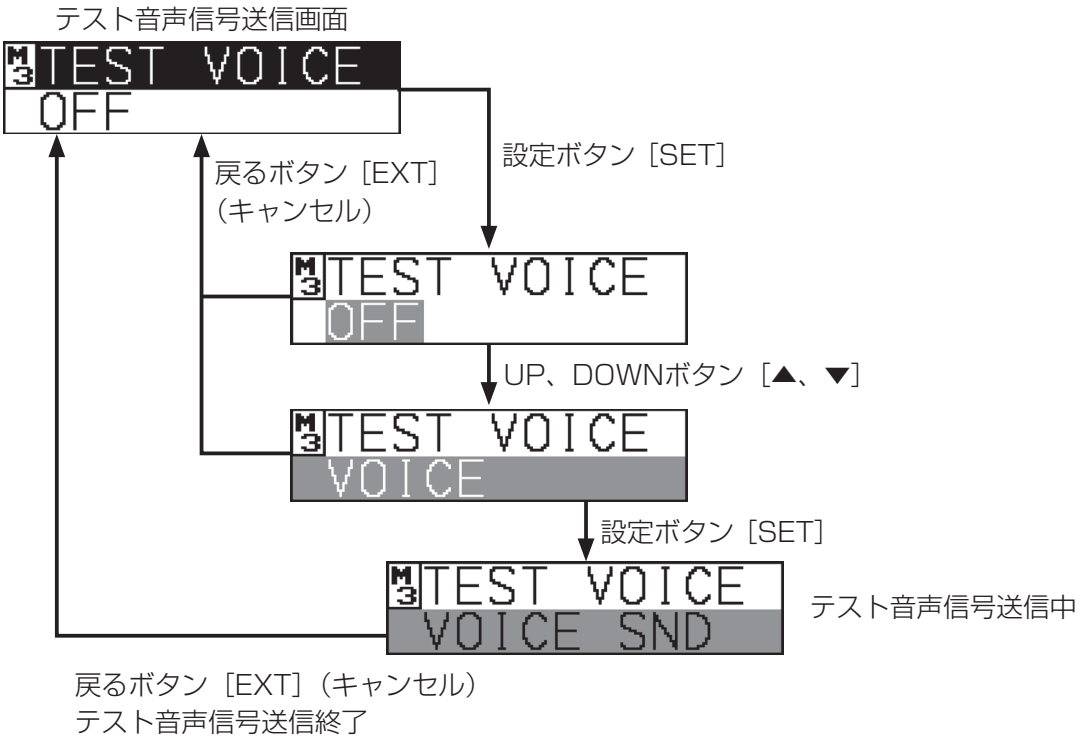
2．マイク名称2桁目の設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、2桁目を設定します。

8．マイク名称8桁目の設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、8桁目を設定します。

マイク名に設定できる文字は、以下のとおりです。
数字　　：0、1、2、3、4、5、6、7、8、9
アルファベット：A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z
記号　　：!、#、&、$、@、+、-、=、_、（空白スペース）、(、)、[、]、.（ピリオド）、*

■ テスト音声信号を送信する

本機からテスト音声信号を送信して、受信機との接続を確認することができます。設定モードで「TEST VOICE」を選択します。
下記のように画面遷移しますので、「VOICE」を選択して設定ボタン［SET］を押します。
テスト音声信号は、女性の声で「本日は晴天なり。チェックワンツースリー。」とくり返し出力されます。
テスト音声信号を送信中は「VOICE SEND」を表示し、戻るボタン［EXT］を押して送信を終了します。



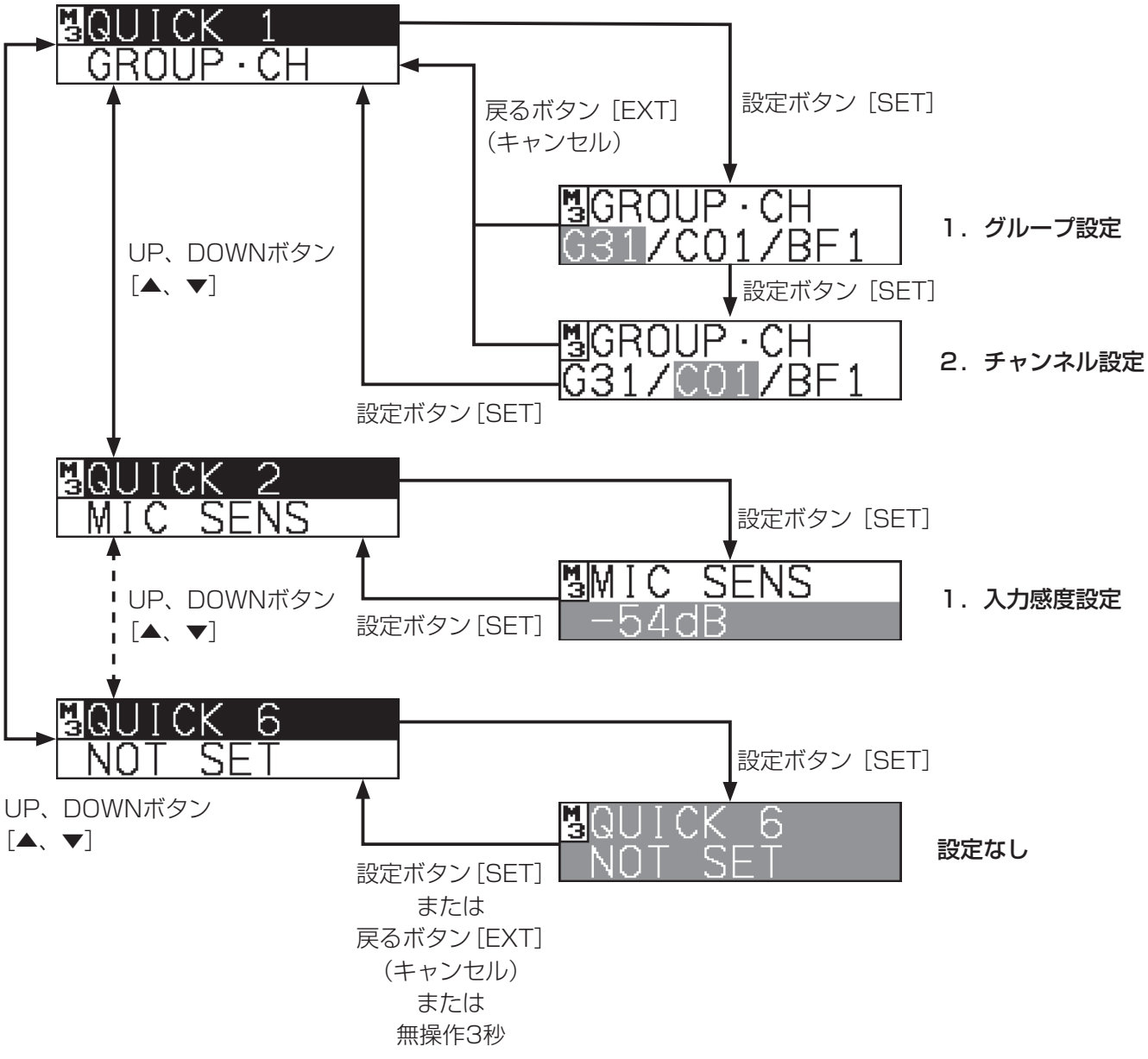
クイック設定モード

クイック設定モードは、メモリーモードであらかじめ登録しておいた設定項目を呼び出し、すばやく本機の設定をするためのモードです。（クイック設定項目は、最大6項目まで可能）
クイック設定モードにするには、以下の３通りの方法があります。
- 運用モード中にUPボタン［▲］またはDOWNボタン［▼］を長押しする。
- メニューモードのメニューからクイック設定モードを選択する。
- UPボタン［▲］またはDOWNボタン［▼］を押しながら電源ONする。

■ クイック設定モードで設定する

あらかじめメモリーモードで、クイック設定項目を登録しておきます。
ここでは、以下の例で説明します。
- クイック設定1：グループ・チャンネル設定
- クイック設定2：入力感度設定
- クイック設定6：設定なし

下記のように画面遷移しますので、それぞれの設定項目で設定をします。



スタンバイモード

スタンバイモードは、電波の送信を行わない待ち受け状態で、電池の消耗を抑える効果があります。
スタンバイモードにするには、以下の３通りの方法があります。
- スタンバイモード機能を「ON」に設定した状態で、運用モード中に電源スイッチで電源OFFする。
- スタンバイモード機能を「ON」に設定し、かつリモートコントロール設定でペアリング完了している状態で、Bluetoothを通じて受信機からスタンバイにする。
- メニューモードのメニューからスタンバイモードを選択する。

スタンバイモードを使用する場合は、スタンバイモード機能を「ON」に設定しておきます。

スタンバイモード機能を「ON」に設定している場合
- 運用モード中の電源スイッチ操作では、電源OFFにならずスタンバイモードになります。
- スタンバイモード中は電源スイッチを操作すると、運用モードになります。
- スタンバイモード中は本機からの電波は送信していないため、電池の消耗を抑えます。

■ スタンバイモード時の液晶表示

スタンバイモード時、本機は下図のような液晶表示になります。

スタンバイモードになってからの経過時間、グループ、チャンネル、チャンネル呼称を表示します。

●スタンバイモードになってからの経過時間
スタンバイモードになってからの経過時間を時間単位で表示します。
スタンバイモードになるたびに、「0h」からカウントを開始し、最大「9h」までカウントアップします。10時間以上の表示は「9h」のままです。

キャリアOFF設定モード

キャリアOFF設定モードは、本機から電波を送信しない状態で、本機の設定をするモードです。
設定できる項目は、設定モード（31ページ）と同じです。
キャリアOFF設定モードにするには、以下の２通りの方法があります。
- 設定ボタン［SET］を押しながら、電源スイッチで電源ONする。
- メニューモードのメニューからキャリアOFF設定モードを選択する。

■ キャリアOFF設定モード時の電源ランプ

キャリアOFF設定モードのとき、本機の電源ランプは点滅表示になります。

■ キャリアOFF設定モード時のテスト音声信号について

キャリアOFF設定モードの設定時、テスト音声信号は選択しても実行されません。

メモリーモード

メモリーモードは、本機の設定を3パターンまで記憶することができ、その中から呼び出して設定を一括で変更できるモードです。また、クイック設定モードで呼び出すための設定項目を6項目まで保存します。

メモリーモードにするには、メニューモードのメニューからメモリーモードを選択します。（49ページ）

設定項目は、下表のとおりです。
各項目は、UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押して選択します。

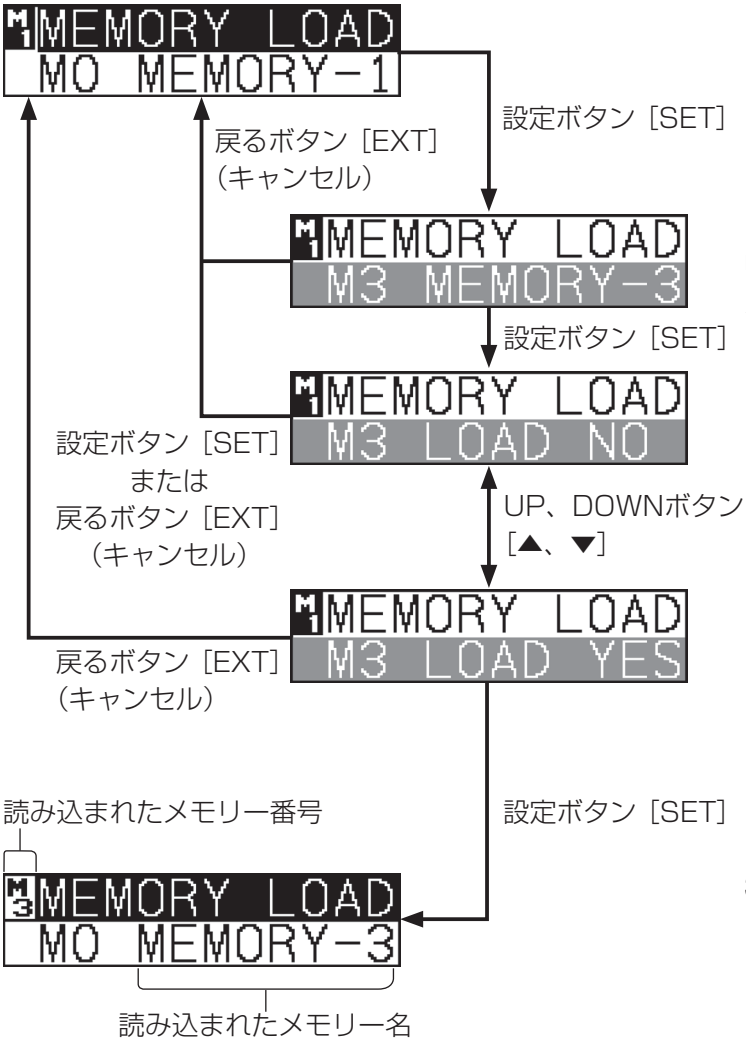
■ メモリーモード：項目一覧

液晶表示	項目	設定値		参照ページ
MEMORY LOAD	メモリー読み込み	あらかじめ本機に保存された設定パターン（メモリー1～3）を呼び出して本機に設定します。		44
MEMORY SAVE	メモリー書き込み	本機に設定されている内容を設定パターンとしてメモリー1～3へ書き込み保存します。		45
MEMORY NAME	メモリー名設定	メモリー番号ごとに名前をつけることができます。		46
QUICK 1 SET	クイック設定1の割り当て	クイック設定モードの設定1で使用する項目を設定します。		47
QUICK 2 SET	クイック設定2の割り当て	クイック設定モードの設定2で使用する項目を設定します。		
QUICK 3 SET	クイック設定3の割り当て	クイック設定モードの設定3で使用する項目を設定します。		
QUICK 4 SET	クイック設定4の割り当て	クイック設定モードの設定4で使用する項目を設定します。		
QUICK 5 SET	クイック設定5の割り当て	クイック設定モードの設定5で使用する項目を設定します。		
QUICK 6 SET	クイック設定6の割り当て	クイック設定モードの設定6で使用する項目を設定します。		
MEMORY RST	メモリ初期化	M1（メモリー名）	メモリー番号1を初期化します	48
		M2（メモリー名）	メモリー番号2を初期化します。	
		M3（メモリー名）	メモリー番号3を初期化します。	
		M0-M3	本機の現在の設定とメモリー番号1～3を初期化します。	
		QUICK	クイック設定1～6の割り当てを初期化します。	
		ALL	本機の現在の設定とメモリー番号1～3およびクイック設定1～6の割り当てを初期化します。	
VERSION	ソフトウェアバージョン表示	本機のソフトウェアのバージョンを表示します。		48

■ 設定パターンの呼び出し（メモリー読み込み）について

あらかじめ本機に保存された設定パターン（メモリー１～３）を呼び出して本機に設定します。

メモリーモードで「MEMORY LOAD」を選択し、設定ボタン［SET］を押します。



１．メモリー番号選択
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、読み込むメモリー番号を「M1」～「M3」から選択します。

２．読み込まない場合は、NOを選択します。

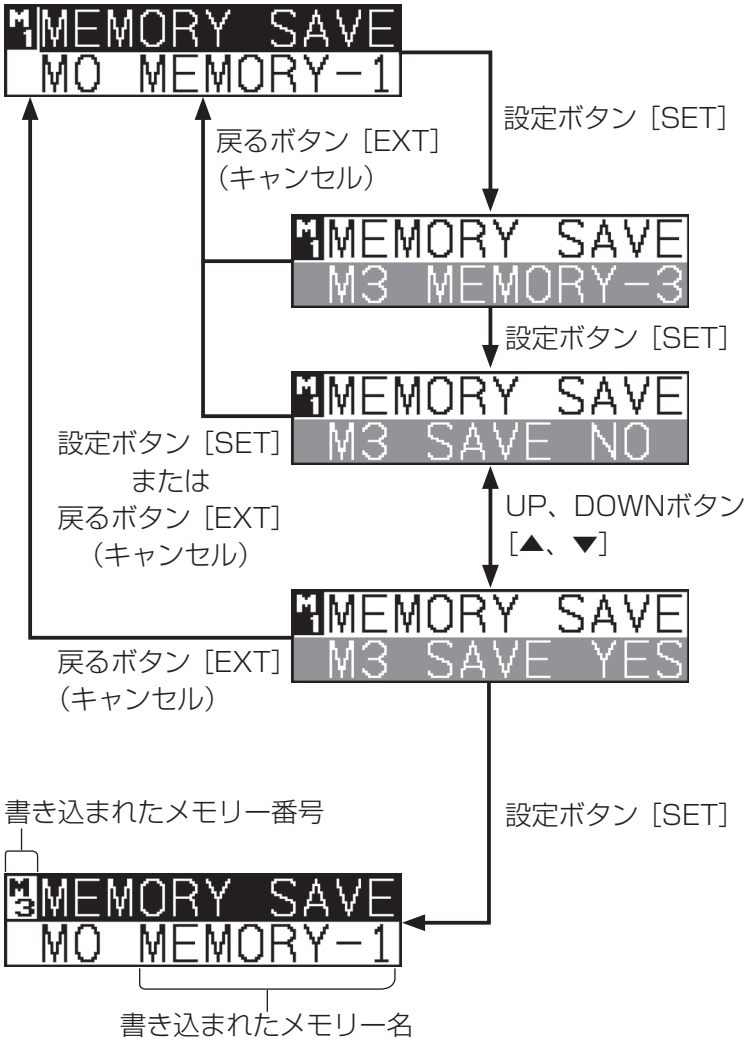
２．読み込みを実行する場合は、YESを選択します。

３．メモリーの読み込みが完了すると、読み込まれたメモリー番号とメモリー名が表示されます。

■ 設定パターンの保存（メモリー書き込み）について

本機に設定されている内容を設定パターンとしてメモリー１～３に書き込み保存します。

メモリーモードで「MEMORY SAVE」を選択し、設定ボタン［SET］を押します。



１．メモリー番号選択
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、書き込むメモリー番号を「M1」～「M3」から選択します。

２．書き込まない場合は、NOを選択します。

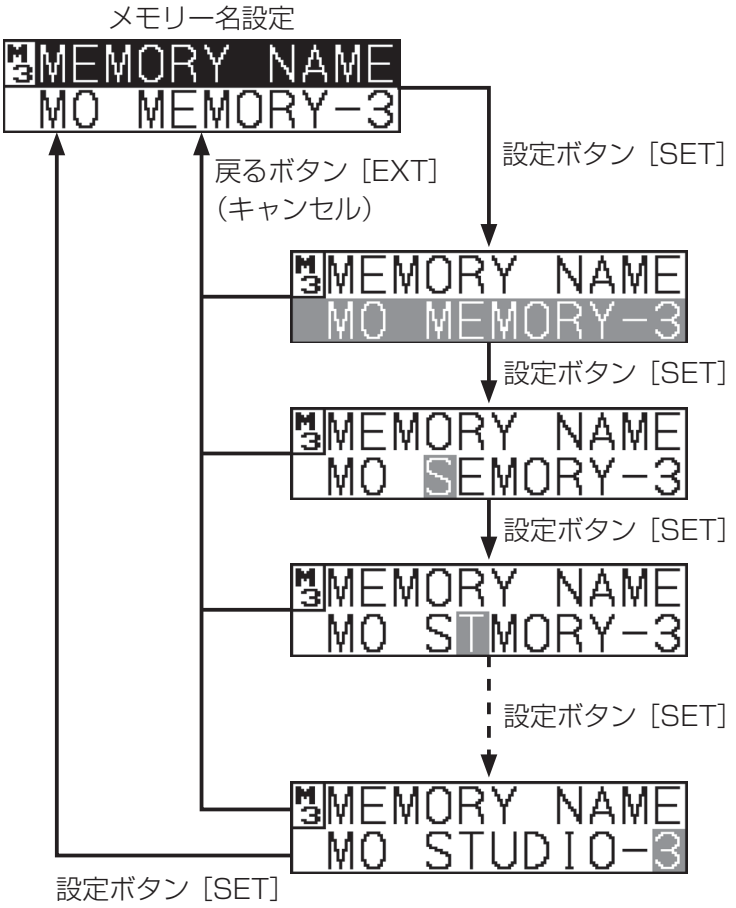
２．書き込みを実行する場合は、YESを選択します。

３．メモリーへの書き込みが完了すると、書き込まれたメモリー番号とメモリー名が表示されます。

■ メモリー名の設定

メモリー番号ごとに名前をつけることができます。

メモリーモードで「MEMORY NAME」を選択し、設定ボタン［SET］を押します。
下記のように画面遷移しますので、文字を設定します。（最大8桁）



1．メモリー番号選択
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、名称変更するメモリー番号を「M1」～「M3」から選択します。

2．メモリー名称1 桁目の設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、1桁目の文字を設定します。

3．メモリー名称2桁目の設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、2桁目の文字を設定します。

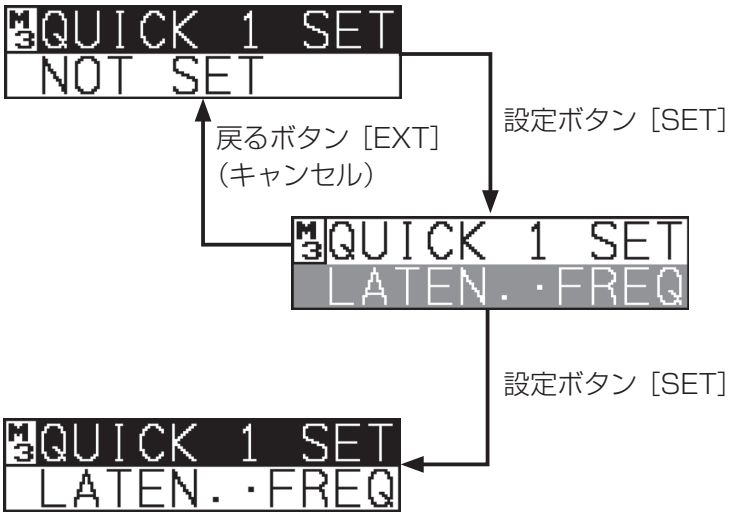
9．メモリー名称8桁目の設定
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、8桁目の文字を設定します。

メモリー名に設定できる文字は、以下のとおりです。
数字　　：0、1、2、3、4、5、6、7、8、9
アルファベット：A、B、C、D、E、F、G、H、I、J、K、L、M、N、O、P、Q、R、S、T、U、V、W、X、Y、Z
記号　　：!、#、&、$、@、+、-、=、_、（空白スペース）、(、)、[、]、.（ピリオド）、*

■ クイック設定の設定項目の割り当て

クイック設定モードで使用する項目を設定します。
クイック設定用の割り当ては、6項目までできます。

メモリーモードで、設定項目を割り当てたいクイック設定番号を「QUICK 1 SET」～「QUICK 6 SET」から選択し、設定ボタン［SET］を押します。（ここでは、「QUICK 1 SET」を選択したときを例にしています）



1．クイック設定割り当て
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、クイック設定に割り当てたい設定項目を選択します。

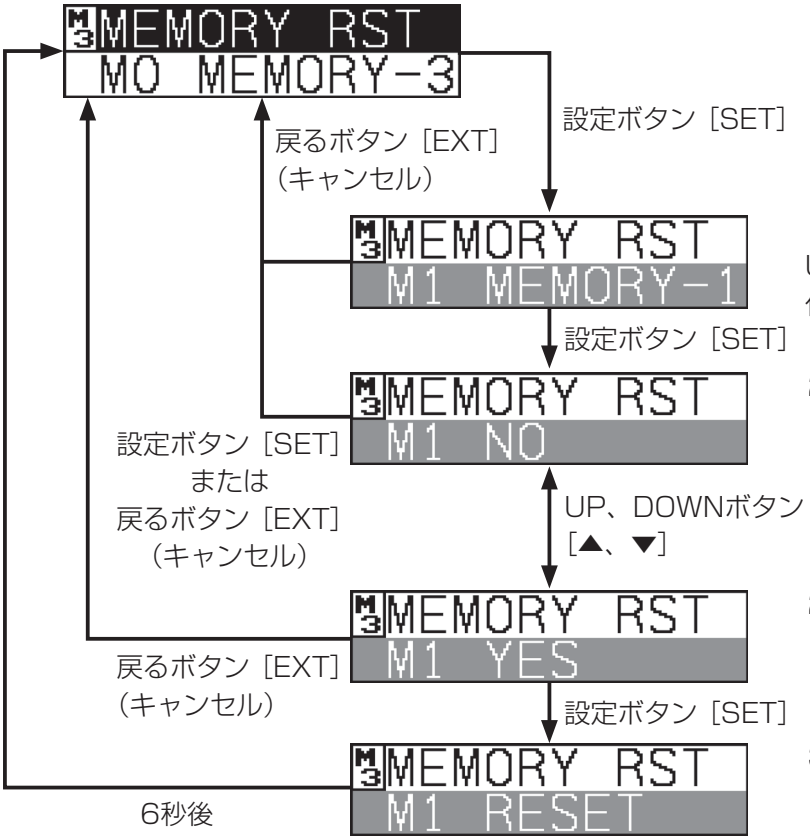
クイック設定に割り当てることができる設定項目は、下表のとおりです（設定モードの項目と同じです）。

液晶表示	項目
LATEN.・FREQ	遅延・周波数設定（32ページ）
FREQ	周波数設定（33ページ）
GROUP・CH	グループ・チャンネル設定（33ページ）
RF POWER	送信出力設定（33ページ）
MIC SENS	入力感度設定（34ページ）
LOW CUT	ローカットフィルター設定（34ページ）
LOW BOOST	ローブースト設定（34ページ）
BATT TYPE	電池タイプ設定（35ページ）
METER RST	使用時間ゼロリセット（35ページ）
KEY CODE	キーコード設定（36ページ）
PRIVATE	プライベート通信設定（36ページ）
REMOTE CTL	リモートコントロール設定（37ページ）
P-ON INFO	電源ON時情報表示設定（38ページ）
STANDBY	スタンバイモード設定（38ページ）
RETURN TIME	無操作時タイムアウト設定（38ページ）
MIC NAME	マイク名設定（39ページ）
TEST VOICE	テスト音声信号送信（40ページ）

■ メモリーの初期化

本機の設定やメモリー内容などを工場出荷時設定に戻します。（工場出荷時設定は、54ページをお読みください）

メモリーモードで「MEMORY RST」を選択し、設定ボタン［SET］を押します。



1．初期化項目選択
UP、DOWNボタン［▲、▼］を押して、初期化をしたい項目を下表から選択します。

2．初期化しない場合は、NOを選択します。

2．初期化を実行する場合は、YESを選択します。

3．初期化が完了すると、「RESET」が表示されます。

UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］で選択できる項目は、下表のとおりです。

液晶表示	項目
M1（メモリー名）	メモリー番号1の初期化
M2（メモリー名）	メモリー番号2の初期化
M3（メモリー名）	メモリー番号3の初期化
M0-M3	本機の現在の設定とメモリー番号1～3の初期化
QUICK	クイック設定1～6の割り当ての初期化
ALL	本機の内部設定を含めたすべての初期化

■ ソフトウェアバージョンの表示について

本機のソフトウェアのバージョンを表示します。

メモリーモードで、「VERSION」を選択すると、下記のように本機のソフトウェアバージョンを表示します。

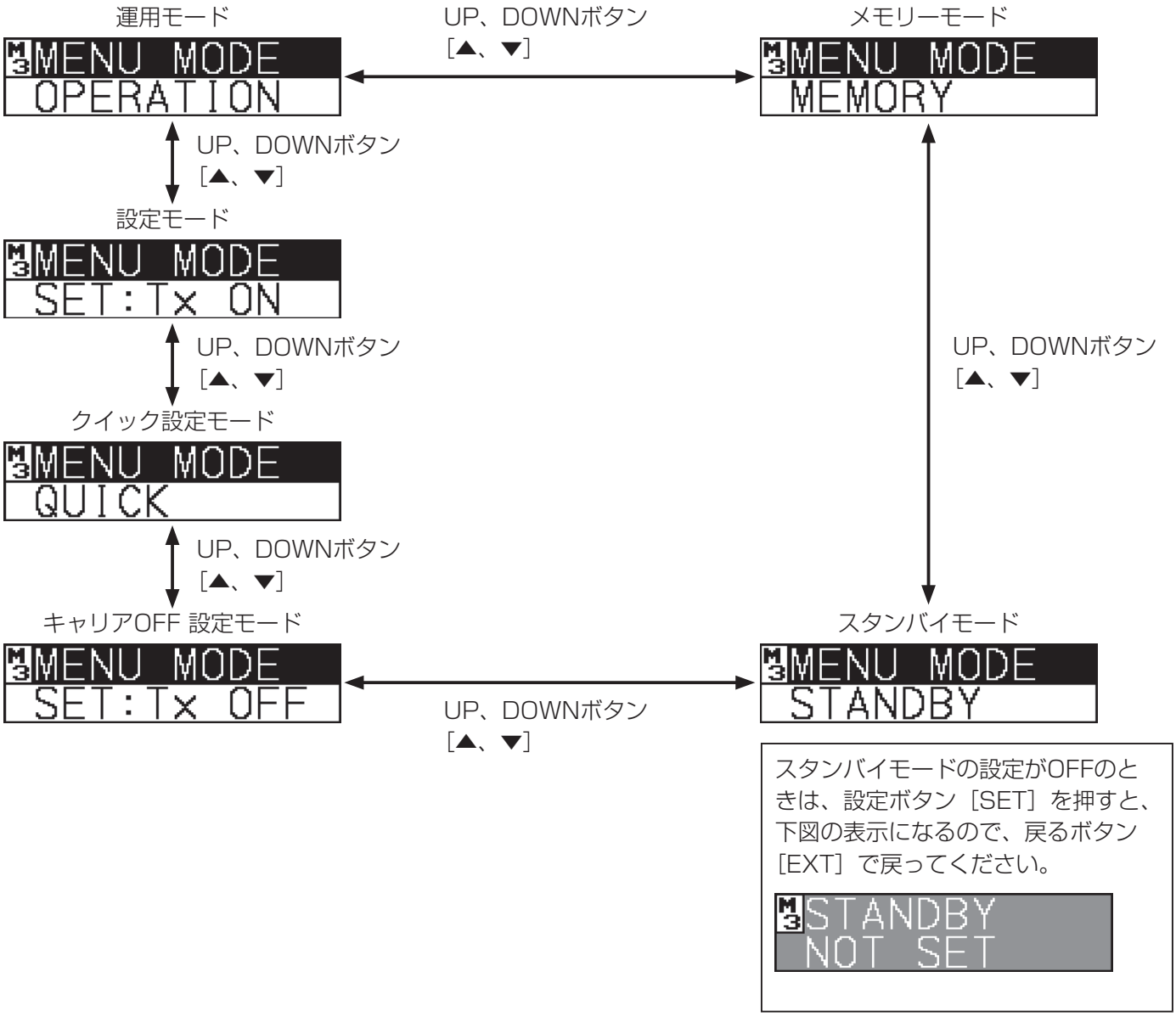
メニューモード

メニューモードは、本機の各モードを選択するためのモードです。
電源OFFの状態で、戻るボタン［EXT］を押しながら電源をONすることでメニューモードにします。
また、運用モード（簡易設定モード含む）、スタンバイモードからメニューモードへ直接遷移するボタン操作はありません。設定モード、クイック設定モード、キャリアOFF設定モード、メモリーモードからは戻るボタン［EXT］を長押しすることでメニューモードになります。

メニューモード中に、無操作が180秒継続するとメニューモードを終了します。
- 電波送信をしていないときは、電源OFFします。
- 電波送信をしているときは、運用モードへ遷移します。

■ メニューモードの操作方法

メニューモードの項目メニューは、UPボタン［▲］、DOWNボタン［▼］を押すことで、下図のように遷移します。
遷移したいモードを選択して、設定ボタン［SET］を押します。



スタンバイモードの設定がOFFのときは、設定ボタン［SET］を押すと、下図の表示になるので、戻るボタン［EXT］で戻ってください。

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。

これらの処置をしても直らないときやわからないとき、この表以外の症状のときまたは工事に関係する内容のときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

症　状	原　因　・　対　策	参照ページ
電源が入らない	● 電源スイッチを正しく操作していますか？ ➡ 電源スイッチを0.1秒以上、右側に倒してください。	18
	● 電池は入っていますか? ➡ 電池を入れてください。	16
	● 電池が消耗していませんか? ➡ 新しい電池と交換してください。	16
	● 電池の＋と－の向きが間違っていませんか? ➡ 正しい向きに電池を入れてください。	16
電源が切れない	● 電源スイッチを正しく操作していますか？ ➡ 電源スイッチを2秒以上、右側に倒してください。	18
電源が切れない （STANDBY表示がでる）	● スタンバイ設定がONになっていませんか? ➡ スタンバイ設定をOFFにしてください。	38
電源ランプが点滅していて使えない	● 電波を送信しないモードになっていませんか？ ➡ 電波を送信しないモードでは、電源ランプが点滅します。ご使用のモードを確認してください。	14・24
受信がまったくされていない （受信機側で音声が出力されない、受信レベル表示が反応しない）	● 本機が送信する周波数と受信機が受信する周波数の設定は合っていますか? ➡ 遅延、グループ、チャンネルの設定を、周波数表を参照しながら受信機と同じにしてください。受信機側の周波数設定については、受信機の取扱説明書を参照してください。	10・30・32・33および受信機の取扱説明書
	● 受信機側システムの各機器間は、正しく接続されていますか? ➡ 受信機側システムの接続とケーブルを確認してください。	受信機の取扱説明書
	● 受信機側システムの中に、電源がOFFになっている受信機やワイヤレス混合分配器はありませんか? ➡ 運用中は、システムのすべての機器の電源をONにしてください。	受信機の取扱説明書
	● 電波を送信しないモードに設定されていませんか? ➡ 音声を出力するためには電波を送信するモードに設定してください。	24

症　状	原　因　・　対　策	参照ページ
受信がまったくされていない （受信機側で音声が出力されない、受信レベル表示は赤色で表示される）	● 本機が送信するバンドと受信機が受信するバンドの設定は合っていますか？ ➡ 遅延、グループ、チャンネルの設定を、周波数表を参照しながら受信機と同じにしてください。受信機側の周波数設定については、受信機の取扱説明書を参照してください。	10・30・32・33および受信機の取扱説明書
受信機側で音声が出力されない。 （受信レベルメータは通常のとおり表示されるが、受信機の“P”が点滅している）	● 本機のプライベート通信を有効に設定していませんか？ ➡ プライベート通信機能を使用する場合は、本機と受信機側に同一のキーコードを設定してください。	36
受信機側で音声が出力されない。 （受信レベルメータは通常のとおり表示されるが、受信機の“🔒”が点滅している）	● 受信機側でキーコードスケルチを有効に設定していませんか？ キーコードスケルチ機能を使用する場合は、本機と受信機側に同一のキーコードを設定してください。	36 および受信機の取扱説明書
混信する	● 本機の近くに他のワイヤレスマイクがありませんか？ ➡ 他のワイヤレスマイクとは離してお使いください。	9
	● 本機の送信出力設定が「10 mW」になっていませんか？ ➡ 本機とワイヤレスアンテナの距離が、「2 mW」に設定しても音切れしない程度の近さのときは「2 mW」に切り替えてください。	33
	● 近くで別のワイヤレスシステムを使用していると、混信する場合があります。 ➡ 別のワイヤレスシステムの設定を確認し、使用周波数が重複しないように本システムのグループまたはチャンネルの設定を変更してください。	9・33
	● 近くに高周波を使う機器や雑音源があると、混信する場合があります。 ➡ 本機とワイヤレスアンテナの距離を短くしてご使用ください。	9
操作する前に液晶表示が変わってしまう	● 無操作タイムアウト時間が3秒等、短い時間に設定されていませんか？ ➡ 操作に慣れていない場合には、無操作タイムアウト時間を長めに設定されることをおすすめします。	38

故障かな!?

症　状	原　因　・　対　策	参照ページ
音切れする	● 本機の送信出力設定が「2 mW」になっていませんか？ ➡ 本機とワイヤレスアンテナの距離が離れている場合は、「10 mW」に切り替えてください。	33
音が歪む、音が大きい、音が小さい	● 入力感度の設定は、入力レベルに合わせていますか？ ➡ 入力感度の設定を確認してください。	34
音声の低域が出ない	● ローカットフィルターが適切に設定されていますか？ ➡ ローカットフィルターの設定を確認してください。	34
音声の低域が出すぎる	● ローブーストが適切に設定されていますか？ ➡ ローブーストの設定を確認してください。	34
エラーメッセージが表示される 「PLL LOCK ERROR」 「FPGA COMM ERROR」 「RC COMM ERROR」 「EEPROM ERROR」	● 本機内部でエラーが発生しています。 ➡ 本機の電源を入れ直してください。それでも直らない場合は、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。	—

仕様

送信周波数	806.125 MHz～809.750 MHz（125 kHz間隔）
電波形式	G1E、G1D
占有周波数帯幅	192 kHz
送信出力	10 mW／2 mW（設定にて切替）
変調方式	π/4 Shift QPSK
アンテナ形式	ヘリカルアンテナ
周波数特性 （マイクユニット、 ラベリアマイクは除く）	20 Hz～22 kHz
全高調波歪率	0.05 %以下@1 kHz
ダイナミックレンジ	Typ.　110 dB（A-weighted、WX-DR131 AES／EBU出力）
サンプリング周波数	48 kHz
量子化ビット数	24 bit
ローカット周波数	OFF／60 Hz／80 Hz／100 Hz／125 Hz切替（12 dB/oct）
ローブースト	OFF／Boost：1／Boost：2切替 Boost：1　：フィルタ特性　180 Hz／+1.5 dB/Q=0.8 Boost：2　：フィルタ特性　250 Hz／+2.0 dB/Q=0.8
入力感度	マイク：-80 dB～-30 dB（基準入力レベル -66 dBV～-16 dBV、1 dBステップ、 ヘッドルーム36 dB） ライン：+4 dB（基準入力レベル+4 dBu、ヘッドルーム 20 dB）
最大入力レベル	マイク：+20 dBV（入力感度 -30 dB設定時） ライン：+24 dBu（入力感度 +4 dB（LINE）設定時）
伝送遅延	約1.3 msec（遅延ショートモード）／約2.9 msec（遅延ロングモード） （ワイヤレスマイクのマイク入力から受信機のアナログ出力までの時間）
Bluetooth 規格	Bluetooth V2.1+EDR class2
液晶表示器	153×40 dots（横12文字、2行表示／バックライト：白色LED）
音声入力レベル用表示	0～　-6 dBFS　：赤点灯 -6～-12 dBFS　：橙点灯 -12～-35 dBFS　：緑点灯 -35 dBFS未満：消灯
使用電池	単3形アルカリ乾電池 LR6（XJ）1.5 V×2本 単3形ニッケル水素電池 BK-HCD 1.2 V×2本
電源ランプ	送信ON時　：点灯 送信OFF時　：点滅
電池残量表示	電源ランプ／電池残量アイコン／電池残量 緑色／残量4本／約75 %以上～100 % 緑色／残量3本／約50 %以上～75 %未満 緑色／残量2本／約25 %以上～50 %未満 橙色／残量1本／約25 %未満 赤色／残量0本／残量がありません
連続使用時間	約5時間30分（25 ℃、単3形アルカリ乾電池 LR6（XJ）1.5 V × 2本） 約7時間（25 ℃、単3形ニッケル水素電池 BK-3HCD 1.2 V × 2本） ＊RF出力10 mW、LCDバックライトOFF、リモートコントロールOFF設定時
使用温度範囲	0 ℃～+40 ℃
寸法	幅64 mm 高さ90 mm 奥行き18 mm（突起部含まず）
質量	約170 g（電池含む）
仕上げ	インディゴブラック色塗装

●ラベリアマイクロホン

方式	バックエレクトレット・コンデンサー型
指向性	無指向性
マイクロホン感度	-40 dBV±3 dB（0 dB=1 V/Pa）
最大入力音圧	130 dB SPL
外形	カプセルφ6 mm（直径）15 mm（高さ） ケーブル長約1.2 m

お買い上げ時の設定

本機の工場出荷時設定は、以下のとおりです。
メモリー番号のグレー部は該当が無いこと、「←」は本機の状態と同じ値を表します。

	本機の状態	メモリー番号1	メモリー番号2	メモリー番号3
初期表示	GROUP/CH			
遅延	SHORT	←	←	←
周波数	806.125 MHz	←	←	←
グループ	31	←	←	←
チャンネル	01	←	←	←
チャンネル呼称	BF1	←	←	←
送信出力	10 mW	←	←	←
入力感度	-70 dB	←	←	←
ローカットフィルター	OFF	←	←	←
ローブースト	OFF	←	←	←
電池タイプ	ALKALINE	←	←	←
キーコード	00000000	←	←	←
プライベート通信設定	OFF	←	←	←
電源ON時情報	OFF	←	←	←
スタンバイモード	OFF	←	←	←
無操作時タイムアウト設定	12秒	←	←	←
マイク名	MIC-1	←	MIC-2	MIC-3
メモリ名	MEMORY-1	MEMORY-1	MEMORY-2	MEMORY-3
リモートコントロール設定	OFF			
クイック設定割当1	設定なし			
クイック設定割当2	設定なし			
クイック設定割当3	設定なし			
クイック設定割当4	設定なし			
クイック設定割当5	設定なし			
クイック設定割当6	設定なし			

保証とアフターサービス よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へ ご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電　話	（　　）　－
お買い上げ日	年　月　日

修理を依頼されるときは
「故障かな!?」（50～52ページ）でご確認のあと、直らないときは、電池を抜いて、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

●製品名	ワイヤレスマイクロホン
●品　番	WX-DT135
●故障の状況　できるだけ具体的に	

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体１年間
ただし、以下の部品については消耗品ですので、保証期間内であっても「有料」とさせていただきます。
- ウインドスクリーン（ウレタン）.....（A9AA2798C4）
- ウインドスクリーン（金網）.....（A9AA2797B4）

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料	**診断・修理・調整・点検などの費用**
部品代	**部品および補助材料代**
出張料	**技術者を派遣する費用**

※補修用性能部品の保有期間　7年

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック　システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル 携帯PHS OK **0120-878-410**（バナハ　ヨイワ）　**受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）**

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは　https://sec.panasonic.biz/solution/info/

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくときのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック株式会社　コネクティッドソリューションズ社

〒812-8531　福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号

© Panasonic Corporation 2017

PGQX2026YA
avx0516-2047
2D-53-0002370A